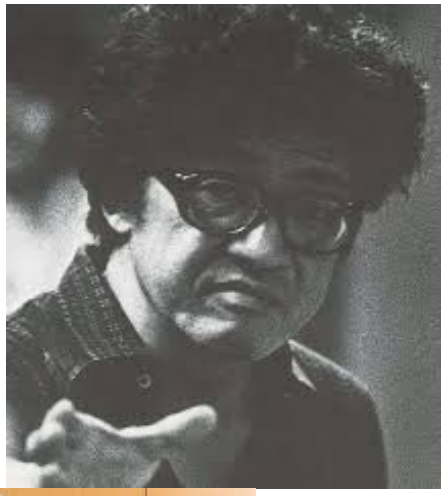
2022年11月1日

# 月刊 もぐら通信

2025年11月1日 第１６２号　第二版　http：//abekobosplace.blogspot.jp

弱者への愛には、いつも殺意がこめられてゐる

あなたへ：
迷う事のない迷路を通って
あなただけの番地に届きます
電話 042-ABE-KOBO
FAX 042-KOBO-ABE



目次

１目次…page２
２記録＆ニュース＆掲示板…page３
３巻頭詩（４８）骨のある方へと：D. J. エンライト……page１７
４　コーボー・ベーシックスkobobasics（９）：箱または閉鎖空間……page２１
５『都市への回路』論（１８）：（４）音の領域[聴覚の小説『密会』］/①盗聴とセックス……page３８
１２　日本一極国家論（続篇）：GAME CHANGE理論（１２）：４.１.６　日本国家核ミサイル保有論３：日本国家核ミサイル保有を主軸にしてみる「日米関係及び日米軍事同盟関係」論……pager４５
６　ＳＦで思考するための本棚（１１）：荒巻義雄論３：『カリフィヤの少年』論……page４８
７　二十一世紀の日本文学のためのスケッチ・ブック PART II：（１）日本の近代文学史を文体といふ遠眼鏡で観る……page５３
８　私の本棚（４７）：荒巻義雄著『出雲國国譲りの謎』を読む……page５６
９　遁走倶楽部（２）：エピチャム語から本邦初の翻訳　S・カルマ氏［翻訳］岩田英哉……page３１
１０　サンチョ・パンサを求めて（２３）：翻訳者の部屋……page５９
１１　ネット・モナド論（３６）：民主主義の政治とは何か……page６３
１３　カフカの箴言（１０）：しかし、本当の説明は、大きな悪魔が……page７２
１４　ショーペンハウアーの箴言（４）：冨は海水に似ている。……page７３
１５　糞尿と性愛の文学~生殖器・排泄器同一社会論仮説~（３）：１。古事記の中の糞尿と性愛/１.１神武初代天皇の皇后（きさき）の出生譚（２）：待て次号：岩田英哉…page
１６　高天原便り（１０）：野菜市場……page７４
１７　縄文紀元論：Topologyで日本人を読み解く（３７）：５.３７　大祓への第一段落第一行には何が書ゐてあるのか……page５７
１８　Topologyで日本の文化を解説する：内なる辺境シリーズ（１２）：扇…page
１９　東ドイツ回想記（５）：何故わたしは東ドイツに行つたのか４…page７７
２０　編集方針……page８０

ニュース＆記録＆掲示板

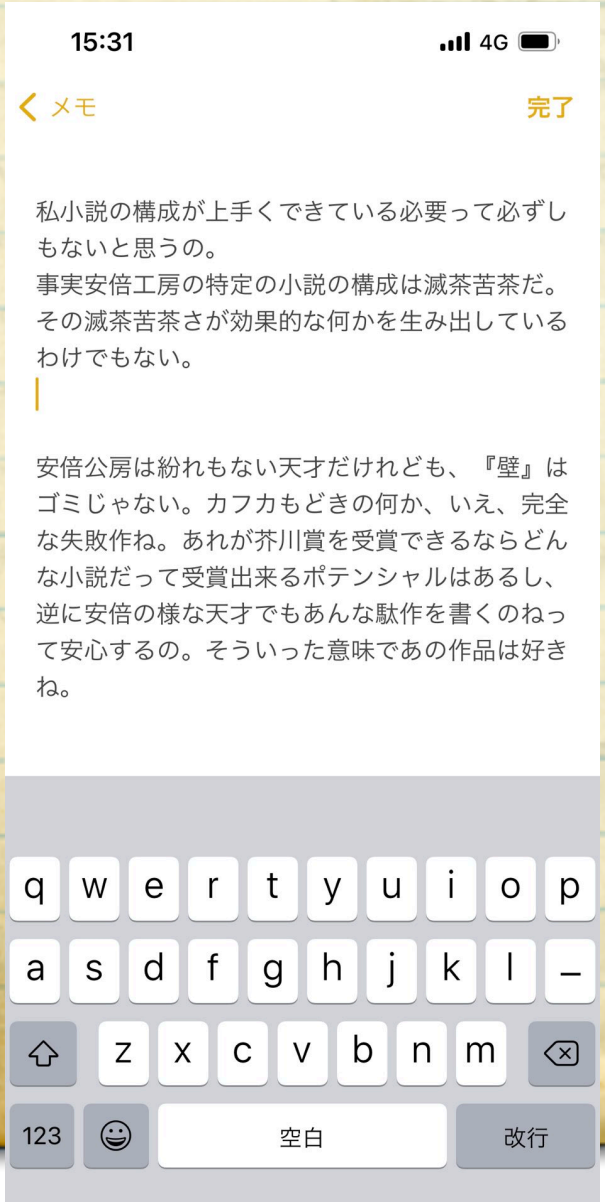
## Thebesttweetsofthemonth

新井光@u_icky4114·Oct 22
安部公房の「変形の記録」すばらしい

こべこべ@kobe_kohbe·Oct 17
年末の安部公房まつりとかやりたいな〜、一人で。

## The worst tweet of the month

えんぴつ＋Toybox@abababababuhuhu·Oct 18
#安部公房



今月の砂漠の思想

週末の本読み@終活中@dev_book_read·6h
安部公房「砂漠の思想」
著者の初期エッセイ集。
ヘビ、SF、文学、映画、演劇など。

解説で安部公房のいう砂漠の思想を理解できる文学者はほぼいなかったというのは頷ける。
方法論を重視した人だけど、それだけの人でもなかった。
安部公房の真似ばかりしてた人が今や芥川賞選考委員という地獄…

今月のユープケッチャ

△@chechire_cat·Oct 19
阿佐ヶ谷ユープケッチャ、いーーーい飲み屋でした。
オーナーさん、安部公房好きなのかな。高菜の昆布漬け、今度作ってみよう

今月の石川淳

ミク@imamibookus·Oct 21
石川淳『西游日錄』 #読了
筑摩書房、一九六五年限定版壹千部の版で読む。
私が初めて購入した、記念すべき「古書」である。
ソビエト連邦作家同盟の招待を受け、一九六四年夏から秋にかけてソ連、東ドイツ、プラハ、パリに遊んだ日々の記録。安部公房、江川卓、木村浩と四人で出発。パリでは一人旅。続

今月の花田清輝

トラッパー@robertbloch0886·Oct 17
しかし埴谷雄高「虚空」と競って同時に花田清輝が完成させるはずだったポーに影響された幻想小説が未完成で存在しないのが惜しまれる 花田は一応幻想小説的なものはあるが創作とエッセイの間で自在に歴史語りしてく代物だから中々. 安部公房に明らかに影響与えてる花田のSF好きはもう少し検証されるべき

今月の事業

夢見りあむ VS. ○○○@RiamuYumemi_VS·Oct 15

「道徳をよそおうことが道徳である」

#自分が心から共感したキャラのセリフ選手権

#安部公房

今月の他人の顔

こみ@refuge52·Oct 19

他人の顔

原作・脚本 安部公房

監督 勅使河原宏

今月の似顔絵

堀口典雅@HolyLemmon·Oct 16

安部公房《1924~1993》

小説家、劇作家

砂の女　燃えつきた地図

#似顔絵

今月の文化大革命に対する反対声明

DefaStyle★（デファ）@DefaStyle_JPN·Oct 17

往時の文革に対して。

川端康成、安部公房、石川淳、三島由紀夫も、連名で声明において、

「われわれは、左右いづれのイデオロギー的立場をも超えて、ここに学問芸術の自由の圧殺に抗議し、中国の学問芸術が（その古典研究をも含めて）本来の自律性を恢復するための

今月の上演　幽霊はここにいる
PARCO STAGE（パルコステージ）@parcostage·Oct 20
／ジャニーズWEST 神山智洋主演舞台
「#幽霊はここにいる」全キャスト決定！
作品の世界観を映したメインビジュアルも到着！
＼
作:#安部公房
演出:#稲葉賀恵
出演:#神山智洋(#ジャニーズWEST)#木村了 #秋田汐梨 #堀部圭亮#田村たがめ／#八嶋智人 他
詳細:https://stage.parco.jp/program/yuurei/
#PARCOSTAGE

ホッタタカシ@t_hotta·12h
大庭三吉・トシエ夫妻が八島智人と田村たがめ。カムカムミニキーナや大人計画を追いかけてた世代なので、感慨深い。伊達暁はどの役なのかな。ポップな安部公房になりそう。
【ジャニーズWEST神山智洋『幽霊はここにいる』メインビジュアル公開　八嶋智人＆木村了らと共演】

丸山港都 Minato Maruyama@3710mm·Oct 21
本読み会、安部公房の『幽霊はここにいる』を読み終わりました。
串田さん演出の『幽霊はここにいる』を高校生のとき観たのを強烈に覚えていてチョイスしましたが、今読んでみるとものすごいグロテスクでとても面白かったです。12月PARCO劇場でやるの観に行きてえなあ。

今月の上演　友達

野井 一十（Noy Ichito）@Noy_actor_jp·Oct 19

【#劇団銅鑼】

#演劇 #公演

奇妙な9人家族が1人暮らしの男のアパートに突然やってきた。

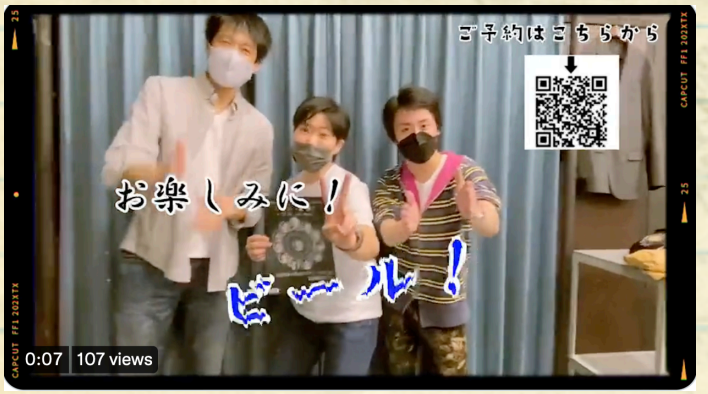
笑顔で隣人愛を唱える彼らに困惑する男の運命は？

作品：『友 達』#安部公房 作

日程：10/26~10/30

所：劇団銅鑼アトリエ

ご予約：https://quartet-online.net/ticket/pro



向暁子@akatsukinimukau·Oct 21

劇団銅鑼ラボ企画

『友達』

作／安部公房　演出／野崎美子

最近かなりの頻度で食べている蒙古タンメン中本の汁なし麻辛麺　バイト先の人にオススメされてからハマった😆銅鑼がある上板橋には本店があるけど、、、、まだ行ったことないんだよな～

絶賛発売中！！

#劇団銅鑼 #安部公房

#友達 #舞台

今月の三島由紀夫

アキノ@akinokot·Oct 19

ロシアの書店にて。

左からデフォー、三島由紀夫、モリエール、スウィフト、サンテグジュペリ、シェイクスピアという並び。

日本の作家では三島をいちばんよく見かける。次いで安部公房かな、たぶん。

今月の贋安部公房

阿房門　王仁太郎(アボカド　ワニタロウ)@R0noFIFdiKiJjA4·Oct 15

#お絵描きばりぐっどくん

「「こんなダメな担当編集者に当たった！」とTwitterで愚痴る安部公房」

寄せる努力をしろ

こもり@療養中

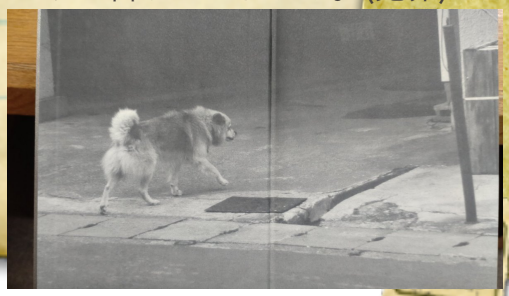
@akaringonlywin·Oct 19

女はみな売春婦であると、安部公房あたりが言ってたような。(冤罪)

今月の安部公房全集

ぐんじ@gun_ji_wowowo·Oct 17

安部公房全集で好きなところ



## 今月のカンガルー・ノート

Daiki@Daiki_mikan·Oct 17
安部公房『カンガルー・ノート』#読了
著者の遺作とされる長編。
「死」に向き合うブラックな物語でした。
晩年にガンと闘病していた安部は、自分を客観視し、死の病と向き合って本作を書いたのではないかと思われます🤔
重いテーマですが語り口は軽やか。
毒のあるユーモアも含めて楽しめました。

ナデナデボーイ@NadeNadeboy_·Oct 18
安部公房の
『カンガルー・ノート』も
安部公房が安部公房してるだけって

死の名言bot@ffwhhros2·Oct 20
「死を遅らせるために、死を早めているのが、文明という預金通帳のやりくりでしょう」 安部公房 『カンガルー・ノート』

## 今月の人魚伝

夜長@SireneSx0·Oct 19
前も呟いたと思うけどこの人魚アンソロめちゃくちゃいいんだよな……色んな人魚の話が摂取できるし、安部公房の人魚伝も入ってるし……

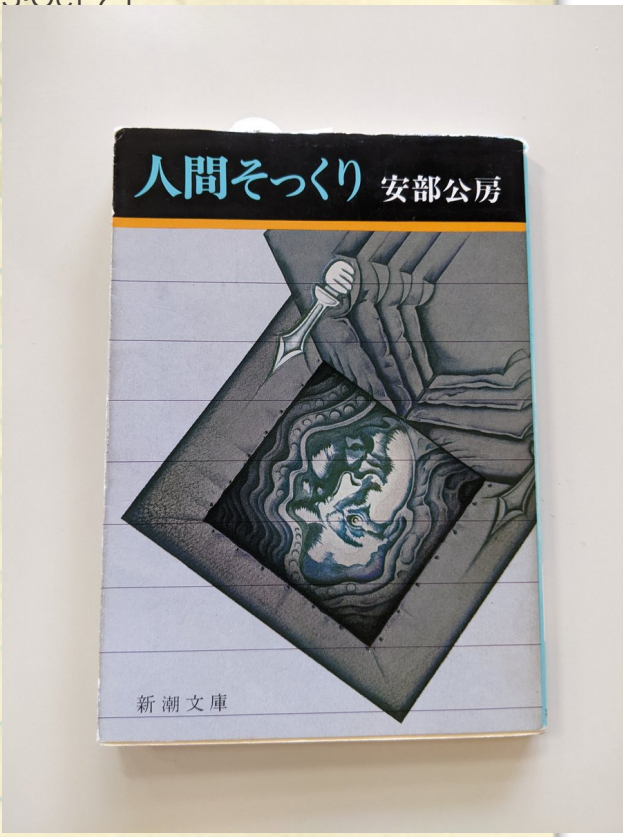
## 今月のアサヒこと木石岳

山下澄人@FICTION96·Oct 21
青葉市子の『海底のエデン』をmacaroomが。
一ヶ月前くらいにアサヒくんとお兄ちゃんのカンフーマスターである南くんとお茶をした。手巻きタバコと安部公房が好きで食べてたというスイートポテトをもらった
Quote Tweet

木石岳 / Gaku Kiishi / Asahi (macaroom)@asahisism8·Oct 21
鍵盤弾きました🎹 twitter.com/emaru_macaroom…

今月の人間そっくり
O・T・T・T・T・のサブアカウント@ottttt03·Oct 21
これやばい
安部公房天才すぎる
必読

読む前に、
あなたが人間であるか、今いる場所はどこか
自問自答してみるとよりよいだろう。




今月の第四間氷期
イワハシ@iwahashiorigo·Oct 17
昔、安部公房をたくさん集めてて、だ
揃ったなと思ったら全部消えてしまったんで
すよ。たぶん、誰かに貸してそのままぱちら
れたんですが、もう誰だか思い出せん。仕方
なく、また一から集め直してます。と、こう
いうことが起こりますね。もう覚えられらん
のかも #だぶりの世界

今月の砂の女
活字猫（第2回 #活字猫の猫の短歌大賞開催
中 ！　11/5（土） 23：30締め切り
@katujineko·Oct 17
#砂の女　#安部公房#読了#活字猫の読書
ノート 34冊目#活字猫の近代文学紹介·
男は逃げられたのになぜ逃げなかったのか。
エピグラフを引用してもいいが私には単に女
（夫婦生活）に溺れてしまっただけのように読
めてしまった。男はいろいろと言い訳をして
いるが結局はそういうことなんじゃないか。

水城 萌@Mizukimoe·Oct 20
【砂の女 (新潮文庫)/安部 公房】を読んだ本に追加
→ https://bookmeter.com/books/580862
#bookmeter

## 今月のワープロ文豪

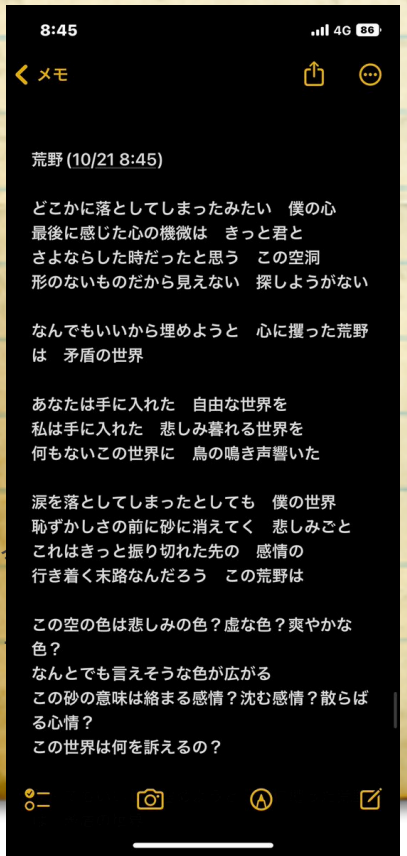
jurys memories bot@jurys_favorite·Oct 19
NWPシリーズ/富士通の「OASYS」に対抗し日本電気(NEC)が発売した同社初の日本語ワープロ。1980年発売の「20」に始まり、亜種の「10N」は安部公房が愛用。これは作家がワープロを用いて執筆した最初の例とされる。なお安部は後に後継機の「文豪」の開発にも協力し、遺稿も同機のデータから発見された。

## 今月の廃墟

mimizuku@廃墟街歩き@hopigon·Oct 15
砂浜をひたすら歩いた秘境に、この世の最果てのような廃村があった。

## 今月の壁

Ātman/アートマン@mant_A4536·Oct 21
安部公房の壁を読んでいて衝撃だったので、少し世界観拝借して一つ書いた




荒野 (10/21 8:45)

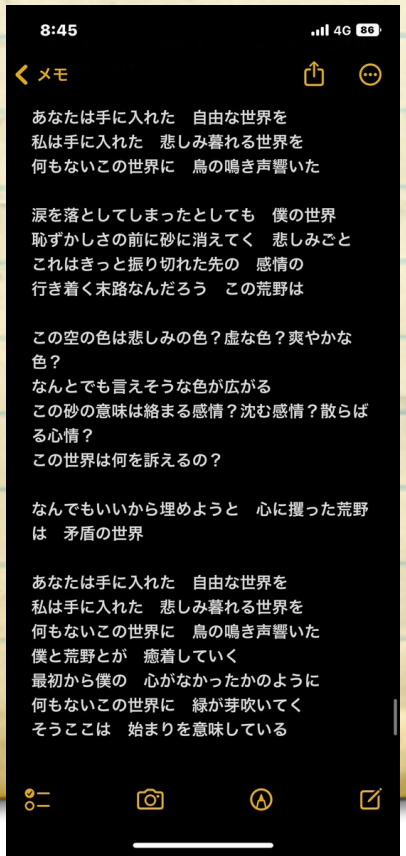
どこかに落としてしまったみたい　僕の心
最後に感じた心の機微は　きっと君と
さよならした時だったと思う　この空洞
形のないものだから見えない　探しようがない

なんでもいいから埋めようと　心に攫った荒野は　矛盾の世界

あなたは手に入れた　自由な世界を
私は手に入れた　悲しみ暮れる世界を
何もないこの世界に　鳥の鳴き声響いた

涙を落としてしまったとしても　僕の世界
恥ずかしさの前に砂に消えてく　悲しみごと
これはきっと振り切れた先の　感情の
行き着く末路なんだろう　この荒野は

この空の色は悲しみの色？虚な色？爽やかな色？
なんとでも言えそうな色が広がる
この砂の意味は絡まる感情？沈む感情？散らばる心情？
この世界は何を訴えるの？




あなたは手に入れた　自由な世界を
私は手に入れた　悲しみ暮れる世界を
何もないこの世界に　鳥の鳴き声響いた

涙を落としてしまったとしても　僕の世界
恥ずかしさの前に砂に消えてく　悲しみごと
これはきっと振り切れた先の　感情の
行き着く末路なんだろう　この荒野は

この空の色は悲しみの色？虚な色？爽やかな色？
なんとでも言えそうな色が広がる
この砂の意味は絡まる感情？沈む感情？散らばる心情？
この世界は何を訴えるの？

なんでもいいから埋めようと　心に攫った荒野は　矛盾の世界

あなたは手に入れた　自由な世界を
私は手に入れた　悲しみ暮れる世界を
何もないこの世界に　鳥の鳴き声響いた
僕と荒野とが　癒着していく
最初から僕の　心がなかったかのように
何もないこの世界に　緑が芽吹いてく
そうここは　始まりを意味している

## 今月の鞄

プニキ@217puniki181006
#安部公房 #鞄
YouTubeに動画を投稿しました。
高評価とチャンネル登録をよろしくお願いします。
https://www.youtube.com/watch?v=JRKjcX9oe4Y&t=46s

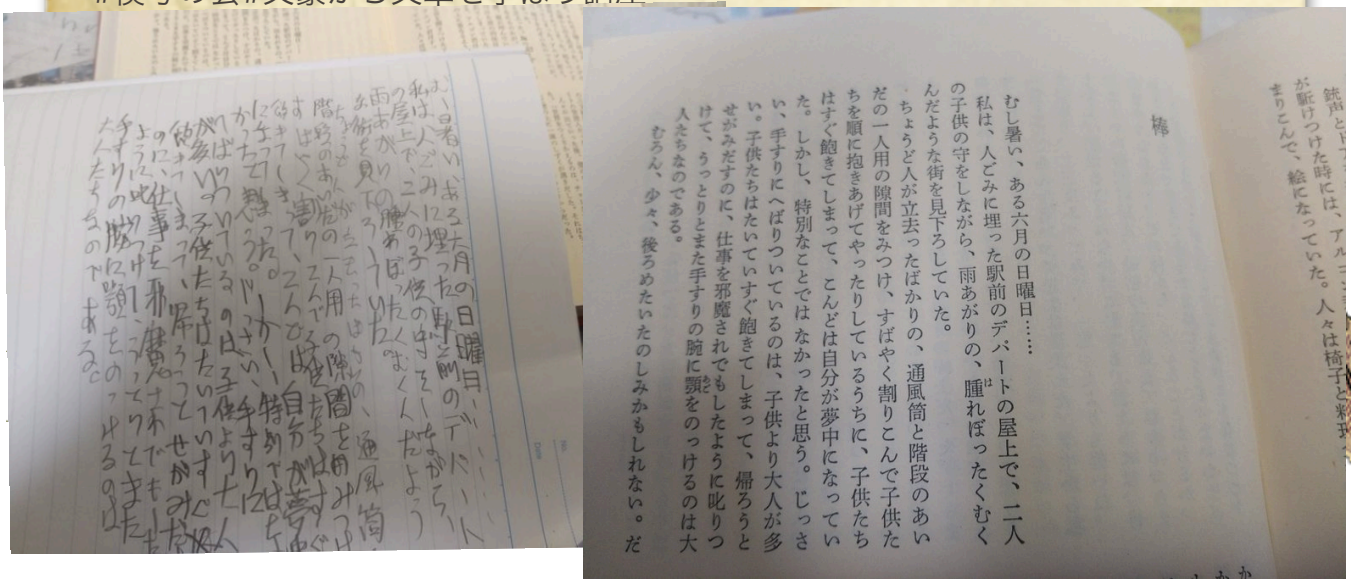
youtube.com
安部公房の「笑う月」から「鞄」読んでみた！！！

## 今月の月に飛んだノミの話

有閑無是@AlkanMuze·Oct 19
寝すぎが癖になる。『カーブの向う・ユープケッチャ』(安部公房著)は六割迄。面白い。「月に飛んだノミの話」は「哲学的領域が、ノミやシラミの集団にも働いていないなどと、誰に断言できるだろうか」という話で、「哲学的領域の笑い」で終わる。昭和三十四年の『婦人公論』に掲載というのもなかなか。

## 今月の愛読者

長谷寺まち@素人作家@rockraplove90th·Oct 17
今日の模写は安部公房の棒。次回はもっとやる量増やします。
#模写の会#文豪から文章を学ぼう講座



okame@okame2007·Oct 18
安部公房　砂の女
20年ぶり2回目。映画も20年前に観てる。30代半ばの岸田今日子がカラッカラ渇いてる中でジメッと演じてて不快なのに忘れられない(褒めてる)。不条理と不快さが加速して最後に凪ぐ感じが「田園に死す」を思い出すよね。

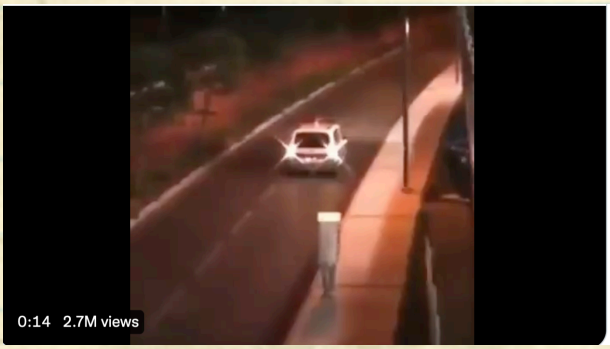
今月の反劇的人間
xika2022@xika2022·Oct 19
Replying to @ochokodeippai2
この対談において満洲育ちの安部公房が、同朋が喧嘩すると隠れる、強盗すると残虐、農協の集団なんか一時的に集団化すると非文明人的に酔う、なんて論って、日本民族を連帯できない砂粒のようだと手厳しく批判した。あれは、ここから引用されたもの。

今月の電子書籍版を出せ、新潮社！！！
のりべん📚読書で学びを深める人
@noribenKyo·Oct 19
久しぶりに読み直したいなぁと安部公房を調べると…なんと電子書籍ないのですね…。たまにありますよねこの、「なんで！！よりによってこれの電子版が！！ないの😭😭😭」という状況。

伽月和紗🌸@kazusa37·Oct 18
これ作りながら安部公房めっちゃ読みたい！！！kindleで買っちゃお♡って思ってみたら1冊もなくて泣いた　入れてくれ……なんなら私がデータつくるから頼む

今月の箱男
Yoshi@y_mezase185cm·14h
安部公房の箱男がいたらこんな感じなのかな。
Quote Tweet

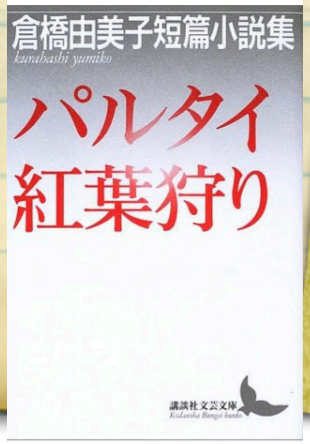
草ッターwwwww@kusatta_www·Oct 21
オービスのコスプレしてたら…www
Show this thread
https://twitter.com/kusatta_www/status/1583453660045922304




かんかん(読書と映画など)@3I5CHmcAGUHsTMw
この御仁 拙者にそっくりである。妻も娘も息子も一瞬見間違えました。髪色が黒のときの僕に瓜二つ。
https://www.youtube.com/watch?v=iuN2jX9w7Xs&t=81s

今月のヤマザキマリ
碧春@また減量中@miharu_g·Oct 20
ヤマザキマリ「壁とともに生きる」読了。安部公房作品を5冊ほど読めば、希望や絆、絶望すら解けてしまう後味の悪さ、違和感、虚妄さが残る大作家だと判明するだろう。それを具体的に的確に「壁」をキーワードに紹介する本作。いやはやキツイ！だからといって逃げる訳にもいくまい。逃げない為の読書

今月の倉橋由美子
Dr.エクアドル@Dr05827166·Oct 17
エンタメしか基本鑑賞しないが、「エンタメしか鑑賞出来ない自分」を再確認するために時にはエンタメ度数ゼロの前衛小説などを読んでみる。前衛の割にはまあ読みやすいけど、苦痛だった。シュールな設定も思想的な何かを寓意してるものと思われるが、全くわからなかった。



# もぐら文学賞第一回募集要領

もぐら通信の創刊号（２０１２年９月３０日）から数へて来月が丁度１０年目です。この１０年の節目を記念して、誠に「時知らず者」の安部公房には申し訳ないが（『中埜肇宛書簡第４信』全集第１巻７８ページ下段）、敢へて小説の募集をします。

１。応募期間：２０２２年９月１日より２０２３年８月３１日まで１年間。発信主義。着信主義ではない。８月３１日付の発信は有効です。
２。送付先メールアドレス：eiya.iwata@gmail.com
３。対象ジャンル：小説
４。小説の長短：
次の安部公房の短編の量の間のいづれかの量：
（１）『赤い繭」の量：最小２０００文字（４００字原稿用紙５枚）
（２）『魔法のチョーク』の量：最大６３００文字（４００字原稿用紙１６枚）
（＊）コントは対象外とします。

５。応募条件：
（１）安部公房の読者
（２）一人何篇でも応募可。応募のたびに名前を変へること可。
（３）年齢：不問
（４）性別：不問
（５）国籍：不問
（６）言語：不問。編集部で日本語に翻訳し、原文とともに掲示します。
（７）提出文書のフォーマット：pdf
（８）かな・漢字：新旧字体不問、正仮名・当用仮名不問

６。応募名：
（１）本名を名乗つてはならない。
（２）安部公房作品の主人公または登場人物の名前を名乗つてはならない。
（３）ネットのハンドル・ネームまたは独自に案出した応募名で可
（４）最も望ましい応募者は国家に登録されてゐない者である

７。選考委員：
（１）もぐら通信の全ての読者
（２）国内外の読者を問はない。

８。作品の公表：
（１）編集部に到着後都度読者に配信します
（２）月毎の配信の号に掲載して応募記録を残します

９。評価方法・評価基準：
（１）安部公房の読者としての選考委員の独自の判定基準に委ねる
（２）採点の範囲は、１点から１０点まで
（３）最終的な判定は、もぐら通信編集員部及び発行人が各作品に下す

１０。評価・選考のためのネット選考会月次開催
これは都度案内します

１１。賞金：１０万円
最終受賞者の複数ゐる場合には均等に分割する

１２。将来の展望：
ノーベル文学章の日本円換算１億円以上にします

以上

もぐら文学賞第一回募集要領

## 応募作品一覧

| | 筆名 | 作品名 | 受付日 |
|---|---|---|---|
| １。 | 芸太 | 弱さ | 2022年・令和４年１０月２０日 |

巻頭詩
（４８）

# 骨のある方へと

D.J.エンライト
翻訳　岩田英哉

## *TO THE BONE*

A Japanese poet wrote from Tokyo
From under a chill wind and a dirty snow,
That people looked wretched, yet a spring day would bring the plum full-blown
And the land turn heavenly to the bone.

The bone, I thought, is a long way down,
Below all the sorrow and trash of this town.
Yet I could have trusted his accurate verse
For a spring day comes, to allay the long curse.

Unlicensed smiles make gay the quarters,
Warm breezes tease the limbs of their grim porters;
The little virtues frolic with their grown-up crime,
While rice-fields glimmer with old silver, which yesterday was slime.

But the politicians live in their own climate,
The cold chairs where they incubate
A future spring of plum and peach and cherry, in superb mutations
Blossoming across the blind and ruined nations.

Or will the breeze blow back
Its old clean meaning to a dirtied word? Sun
show how black
Is another's heart, dolled up to pass a hurried
glance—
And grant us one more chance?

【和訳】

或る日本の詩人が東京から来て、かういふ詩を書いた
　　冷たい風と汚れた雪の下から来て、
人々は見すぼらしく見えたが、でも、春の日が来れば
　梅の木が満開になつて
　　そして、国も土地も骨の方へと天国に向かつて向くことだらうと。

その骨は、と私は思ったのだが、ずつと向かうに長い道を下つて行つたところにあつて、
　　此の町の総ての悲しみと総ての灰燼の下にあるのだ、と。
しかし、私は詩人の正確な詩の韻律を信頼することができた
　　といふのは、或る春の日がやつて来て、長い呪詛を冷ますからなのだ。

誰の許しもなく資格もない微笑みを微笑むと、町の中の街区が幾つも陽気になつて、
　　暖かく優しい風が、厳しい表情の荷運びや赤帽たちの四肢を撫ぜて揶揄（からか）ふのだが、
小さな美徳が幾つも成長して成るだらう美徳の犯す罪が陽気になつゐる間に、
　　水田の水が古い銀の色できらきらと輝いてゐて、それは
　　昨日は泥であつたものだ。

しかし、政治家たちは、自分達の天候の中に生きてゐて、
　　卵を孵（かへ）す場所にゐて、冷たい椅子に座つてゐるのだが、

梅と桃と桜桃（さくらんぼ）で一杯の未来の春が来て、
　最高の、たくさんの本質的な変化の中にあつて、
　　盲目（めしい）てゐて廃墟となつた幾つもの国々を横切つてこれら梅と桃と桜桃の満開の花が咲いて通つて行くのだ。

あるいは、あの優しい風が吹き戻つて来て
　　その古い清らかな意味を、汚された言葉に吹き付けるのであらうか？
太陽はなんとまた黒い色を見せてゐるといふのに
もう一つの、さうではない別の心の中では、通りすがりに急いで一瞥をくれて寄越す位にまで太陽は綺麗に着飾るまでになつてゐてー
　　そして、私たちにもう一度の機会を許し賜ふのであらうか？

【解釈と鑑賞】

一読、これは第二次世界大戦の直後に書いたイギリスの詩人の詩であらうかと思つた。経歴を拝見すると、この人はイギリスのリーミントンに生まれ、ケンブリッジ大学で教育を受け、結婚して子供が一人。英文学をエジプトとイングランドの幾つもの大学で教へ、そして［この詩集の編まれた時には］（現在は）日本で教鞭を執つてゐる。と、このやうにありますので、この詩の第一連で日本の詩人が書いたといふことですから、多分日本で書いた英語の詩なのでありませう。この詩人の出版記録を見ると、この詩を書いた時点での最後の出版物の年が１９５６年ですから、日本が独立を回復したといふ其の後の日本にきてゐて、日本人が再建に勤（いそ）しんでゐた時に来日したのだと思はれる。さて、そして、従ひ、

A Japanese poet wrote from Tokyo

とあるこの一行の意味は、多分、日本にゐる此の詩人は田舎の大学で教へてゐたところに、東京から日本の詩人が尋ねて来たのではないかと思ふ。そして、その時の東京は、しかし未だ酷い状態で、まだ廃墟のままの面影があり、だから「冷たい風と汚れた雪の下から来て」と歌つてゐるのです。実際に復興が既にあつたとしても、直近の過去の記憶は此の詩に生きてゐる。さう考へてゐることができます。こんなイギリス人の詩人が日本にゐたのだ。

この詩の題名をどう訳すかといふ事を思案して、詩を読む前のまづ最初の訳は、骨のある所にて　としたのは、英語のtoはドイツ語のzuと同じで場所を意味するからです。これに主語の移動の動詞と組み合はせると其の場所の方向へといふ意味が生まれる。詩の中身を読んでみると、第一連の最後の行に、

And the land turn heavenly to the bone

とありましたので、ここで訳を　骨のある方へと　と訳した次第です。

この一行の動詞はturnsではなく、sのとれたturnですから、これは一種の祈願文または、話者がその言葉の中に入つて行つて動詞が原形になつてゐるといふ話法の転位の問題ですので、話者の語る今現在の時間から転じて、現在ながらの別の世界での報告といふ体裁になつてゐる。それはいはば夢の中での出来事のやうである。ですから、heavenlyといふ副詞が実に効いてゐる。それ故に、骨の方へと天国に向かつて向く　と訳すことができた訳です。この世のことではないのです、このturnといふ動詞の形態の話法上に持つ意味は。そして、このturnがこのやうにあり得る理由は、その前の文が、

A spring day would bring the plum full-blownとあるからで、ここでwouldを使つて、英語の文法でいふ非現実話法に話法が転じてゐるからです。このやうな表現への気配りに、日本に此の時住んでゐたイギリス人としての詩人の、ありがたいことに、日本の国と国土と日本人への思ひ遣りと共感と祈りを私たちは感ずることができます。

これは詩人の言葉の世界ですから、第二連では梅と桃と桜桃（さくらんぼ）を歌ひ、この春の訪れと共に咲き始める花と実を詠みながら、花盛りになつて行きながら国々を通つて国土の、土地土地の恢復と復活を読み上げるやうに詠んで、第三連では此れも国土の復興に勤（いそ）しむ政治家たちとはいへども、これは詩人の世界ですから、政治家たちとは一線を画して、未来の春を慶（よ）みするのです。日本の今と未来を慶賀する心といつてもよいでせう。

最後の連もまた、この詩人らしい美しい心で歌はれた連であると思ひます。

コーボー・ベーシックス

# kobobasics
（９）

## 箱または閉鎖空間

岩田英哉

閉鎖空間といふ抽象的な名前がもつと具体的な日常のものの名前になると、箱と呼ばれる、私たちの身近にみる空間になる。安部公房が終生描き続けたものが箱である、または閉鎖空間であるといつてもよい。これは主題であると同時に舞台でもあつて、登場人物たちは、この空間の中からの脱出を目指すか、または砂の女や仁木順平のやうに脱出を諦めて生活を続けるか、二色の人生に分かれます。これはこのまま、実はよく考へれば、わたしたちの人生そのものである。さうして、安部公房の読者である私たちは、常に拘束を嫌い、蝉や蛇のやうに脱皮し続けることを願つて生きてゐる、どうやら人間なのである。

安部ねり著『安部公房伝』を読むと、既に奉天の幼稚園の時に、幼稚園の先生が安部公房といふ子供のために特別に大きな積み木を用意してくれたといふ記述のあることから、この子供は小さな積み木で家を作つてもその内部に入り込まうとしたのではないかと推理される。これが、資料に残る最初の、安部公房の箱であり、積み木でつくつた閉鎖空間です。

次に文字として知ることのできる箱は、同じ『安部公房伝』によれば、小学生の時の次の詩です。これも早や、後年作家として世に出てきた時の安部公房の世界です。

クリヌクイ　クリヌクイ
カーテンに映る　月の影

最初の一行は、夜に外部で行商して歩く異人の、多分満洲族かの栗売りの呼びかけの声である。焼き栗売りですから季節は秋から冬。一寸飛躍し過ぎに聞こえるかも知れないが、今同時並行で『都市への回路』論を書いてゐるので連想が働くのであるが、このカタカナで書かれた呼び声は、『密会』の盗聴による聴覚小説であり、他方、次の二行は、『箱男』といふ題の元に書かれた視覚小説に結果してゐる。

それも、カーテンに映る月の影を、この子供は見てゐるのであつて、部屋の電気を消して室内を暗くして、現実をカーテンを開け窓越しにか窓を開けて直接見てゐるわけではなく、見るのは何か現実がカーテンに映写された月の影を見るのである。読者は此処で『S・カルマ氏の犯罪』の最後の場面で登場するロー

ル・パン氏の映写する世界の果ての映る映画の白い幕と、その中へと失踪する主人公を思ひだすことは、おかしなことではないと思ふが、如何か。この部屋は二階にある子供部屋であつて、この部屋そのものが、安部公房にとつては覗き窓のある箱なのです。あの異界からの行商人の栗売りの声は、きつと世界の果てへ誘ふ声であるのでせう。

この場合、この部屋に、『安部公房伝』によれば、しばしば友人と一緒に玄関を通らずに直接登つて入つてゐたとあります。母よりみは安部公房が長男であり一家の長たる後継ですから、教育に熱心で躾も厳しかつた様子で、玄関に友達を連れて来ると来訪の主旨を友人に尋ね質したとあり、それをうるさがつたから、さうしたのだといふのがねりさんの記述ですが、それ以外にはもつと根本的には、この小学生の心の底には、高さを登つて直接二階の箱の中に入ることに喜びを感じたといふことがあるのではないかと思ひます。何故なら、

<u>垂直方向といふ高さには時間は無い</u>　からです。

玄関から入ると挨拶から始まり、初めての時ならば自己紹介をしなければならず、客間に通されて、お茶が出てきてまたそこで儀礼的なやりとりがあり、といつた煩雑な時間の中で進行する儀礼ごとを全て不要にし、閑却して、一気に直接空間の本質に至る方法が、この高さを登つて自分の箱に入るといふ道が、安部公房は好きだつたに違ひない。この垂直方向といふ無時間の方向に立つものに変形するのは、安部公房の主人公たちによく見られるものです。曰く、最後には壁になつたアルゴン君、やはり最後には壁になつて垂直の方向に果てしなく成長するS・カルマ氏、垂直に立つシュールレアリスムの塔の内部にとらぬ狸に頭をぶん殴られて気絶して入ることのできたアンテン君、砂の穴ならば垂直に降下する仁木順平、といふことならば同じ地下へと降りてゆく『方舟さくら丸』の主人公もぐらと乗船切符の所持者たち、迷路の中を彷徨ひ歩いて方向感覚を失ふ『密会』の、ジャンプ・シューズといふ垂直に飛び上がる靴を販売する営業マンの主人公、カンガルーの袋の中へと失墜して落ちて行く『カンガルー・ノート』の主人公は冒頭の提案箱の中の世界を自走ベッドに乗つて彷徨ひ移動する、といふやうに思ひつくままに、多くの例を挙げることができる。

子供部屋の後に資料に残つてゐる閉鎖空間は『天使』といふ作品です。この作品は満洲からの引き揚げ船の中で書かれたのではないかと加藤弘一氏によつて推測されてゐるので、さうであれば、安部公房２２歳、昭和２１年、１９４６年です。クリヌクイの詩が、文字通りに詩文として最も完成されたものであるとすれば、同様に早くも此の『天使』といふ作品は散文として最も完成されてゐる最初期の作品です。この作品の出だしで、私たちは直ぐにクリヌクイの二行の詩を連想することができる。

「（略）超越し得ない限り時間には忠実であらねばならない。これは私の意見から申せば第五十一番目の真理の影に相当する筈だ。其の説明は又別の機会に譲ってさて、次を続けよう。つまり例外でないものの事だ。それは私が一つの正確な世界に住んでいた、或る意味では、正六面体の宇宙に住んでいたと言う事の為に発見した真理、第一級の真理の事なのだ。御承知の通り無限を意味する灰色の六つの、いや五つ半の面と、半分の未来とに世界は仕切られている。お解りだろうか。実の所を言えば、私も始めこれは唯の部屋だと思っていた。所があにはからんやである。これが宇宙そのものだったのだ。そして固い壁だと思っていたものが、実は無限そのものであり、恐ろしい不快な鉄格子だと思っていたものが、実は未来の形象そのものに他ならなかった訳なのだ。」

上の引用の最初にある超越といふ言葉は、私のよく多用する超越論の超越で、２２歳の安部公房は当然に成城高校でドイツ語を学んでゐたから此れがTranszendenz・トランツェンデンツといふ名詞であることを前提に此の日本語を書いてゐる。即ち時間を超越してゐるといふ意味である。「例外でないものの事」とは従ひ、時間の内部にあるものの事といふ意味である。その時間の内部に正六面体の箱が閉鎖空間としてあるといふことになるのです。しかし、そのうちの一面のうちの半面はいはば箱男の窓であつて、「未来の形象そのもの」である。といふ意味は、「カーテンに映る/月の影」、といふ意味です。逆に考へれば、カーテンに映る月の影は未来の形象自体であるといふことにもなります。これが「第五十一番目の真理の影に相当する筈」の影である。「第五十一番目の真理」の第五十一番目の５１といふ数字は奇数であつて割り切れない数字であることが、「無限を意味する灰色の六つの、いや五つ半の面と、半分の未来とに世界は仕切られている」とある此の「五つ半の面」が、割り切れないが故に「例外でないものの事」なのであり、それは未来の形象を写し映した影であり、その中へと天使は此の窓から脱出をして放浪して歩くことになるわけです。

箱と来れば、いつも窓と一対になつてゐる此の窓が未来への形象自体であるといふこの考へを、私たち読者は心に銘記してをくことは、安部公房の文学を理解するためには大切なことです。今、全集の中から、窓といふことを書いた作品の名前を、書簡も含めて、以下に『もぐら感覚５：窓』（もぐら通信第３号）より引用して列挙しますので、全集にあたつて御研究下さい。

「安部公房は、子供のころから、窓というものに特別の注意を払っておりました。

今、ざっとわたしの記憶にある、安部公房の窓の出てくる資料を挙げると次の

ようになります。

１。小学生の時に書いた現存する最初の詩の窓

２。中埜肇宛書簡（第４信）の窓氏（１９４３年）

３。「詩と詩人（意識と無意識）」の窓（１９４４年）

４。「君が窓辺に」という詩の窓（１９４４年）

５。「天使」という最近発見された作品の窓（１９４６年）

６。「第一の手紙～第四の手紙」の窓（１９４７年）

７。「箱男」の窓（１９７３年）

８。「カンガルー・ノート」の窓（１９９１年）

これ以外にも、もっとたくさんの安部公房の窓がある筈です。ご存じの方は、ご教示下さい。また、ご自分で安部公房の文章を読む時に注意を払って読むと、あちこちに見つかるのではないでしょうか。

１。小学生の時に書いた現存する最初の詩の窓

さて、「安部公房伝」（安部ねり著。２６ページ）に、安部公房が小学生のときに書いた次の詩があります。

「クリヌクイ　クリヌクイ」
　カーテンにうつる月のかげ

これが窓の初出です。

　クリヌクイとは、栗温（ぬく）いの意味で、当時の満州奉天で安部公房が聞いた栗売りの声を詩にしたものです。あるいは、栗温いをカタカナにして表したのは、栗売りが日本人ではなかったからかも知れません。少なくとも、安部公房にとって、ひどく特別なものに聞こえて来たということなのでしょう。また、カタカナで書かれていることによって、その声が異界からの誘いの声のようにも聞こえます。

ここには、文字として窓という文字は出て来ませんが、カーテンの向こう、外界との間に窓があります。

これは、ある夜、自分の勉強部屋にいる自分を歌ったものなのでしょう。

部屋という空間も、安部公房が繰り返し描く、孤独の場所です。カーテンに月の影が映るのですから、安部公房は電気を消して、暗い闇の中にいる自分を歌ったということになるでしょう。ある空間の中に一人、夜、闇の中にいて、動いて生きる人間を照らす外界の月の反照を見、外界を直接にではなく、窓を通し、カーテンを通して間接的に眺める小学生の安部公房。

この静寂の支配する空間（部屋）と、内部と外部の問題は、そのまま１０代で耽読するリルケの世界に、思考と感性において、一直線に繋がっています。何故ならば、リルケの詩の空間は、詩人に典型的であるように時間を捨象した空間的な造形の世界、針一本落ちる音のしない空間であり、時間の無い事から見方を変えれば死者の世界であり、またリルケという詩人は、内部と外部の空間の交換の問題を言葉で表し、その問題を詩的表現にまで昇華した詩人だからです。

さて、この窓は、１０代になると更に変貌を遂げます。

２。中埜肇宛書簡（第４信）の窓氏（１９４３年）

中埜肇宛書簡（第４信。１９４３年。１９歳）では、窓については、次のように書かれています。

「ニーチェは僕の目に益々偉大に、物苦しくうつつて来ます。

没落は、実は今の所ある非常に大きな暗礁にさしかかって居るのではないでせうか。十九世紀の歴史的意義は果たして何だつたでせうか。……新しい登上人物。別離と窓氏。

中埜君、どうかニーチェが気が狂ったと云う事と、最後迄ワーグナーの悪口を云ふのを忘れなかつた……あきなかつたと云ふ事に御注意下さい。人間はあの悲しい反照なくしては自己証認すら足場をなくするのです。……僕がふと見上げる時、人々はつめたく窓をとざす。「これは君の趣味ではないのかね」

とある通りを読むと、ニーチェの名前があるように、そうしてニーチェの創造

した主人公、ツァラツストラがそうであるかのように、概念の山の頂きから下界の詳細な現実へと下降して来る、その意識のもとに書いた「問題下降に依る肯定の批判」（１９４２年。１８歳）で書いたことを意識して、１０代の安部公房は、この手紙を書いたのだと思います。

没落の生活をする中で、どうも窓は、他者との通路のようです。またそうして、この外界は自己の意識の反照であるということなのでしょう。その反照がなければ、人間は自己を認証することすらできない。認証という言葉は重く、これは社会が自分を認めてくれるということ、社会の中にいる人間として社会が認めることです。ここに既に、生涯に亘る安部公房の小説の主人公達の意識があります。

　また、この当時の安部公房は、窓ということと別離を一緒に考えていたということがわかります。別離ということもまた、安部公房が一生意識した大切なる人間の事由でした。

３。「詩と詩人（意識と無意識）」の窓（１９４４年）

　そうして、「詩と詩人（意識と無意識）」（１９４４年。２０歳）の中に次の文章がありますので、引用します。この作品は２部構成になっていて、第１章が「１。真理とは？」、第２章が「世界内在」と題されていて、当時の安部公房の論理的な思考が書かれています。窓が出て来るのは、この第２章です。少し長い引用となります。

「自己の内面に心をはせて、あの心の部屋と自分に全く無関心な外界との分裂に気付く人は、その間を隔てている永遠の窓を幾度も押し開けようと試みる。けれど何時でも、その窓を押し開けようとして差しのべられた手は力無く、実体を伴わぬ幻影のように侘しく目的を放棄して終わらねばならない。その窓は永遠に閉ざされているのだ。

　しかし、その分裂の悩みの裡に憧れたその窓の外には、果たして今吾等が見ているが儘の姿が現存するのであろうか。果たして此の窓ガラスは透明に外界の形象をありの儘に我等の孤独の部屋の中に送り込んで来るのであろうか。若しかして此の色とりどりの外界は単に窓ガラスに巧みに画き出されて行く幻ではないのか。それとも此の窓は吾等の心の反照たる鏡なのではなかろうか。

（省略）

　此の窓が、これも亦やはり人間の在り方であると言う事は誰しも認める事だろう。それならば、その窓を通して（と思われる）見えるあの外界の形象も亦、その窓に属するものと考えなければいけないのではないだろうか。と言うのは、その外界は実存すると否とに不拘、既に窓を通して見たと云う特殊の制約を性格として附加されていて、しかも其の窓は人間の在り方と云う体験的解釈である以上、その外界は明かに吾等の体験的解釈を通じてのぞき見たものに他ならないのである。それ故にこそ外界は、<<かく見ゆる>>のである。」

「詩と詩人（意識と無意識）」では、この内面と外面の接触面にある、永遠にそのふたつを隔てているもの、そうしていて外面が内面にその「外界の形象を送り込んで来る」当のものを窓と呼んでいます。勿論この窓は疑うべき対象であり、「果たして此の窓ガラスは透明に外界の形象をありの儘に吾等の孤独の部屋に送り込んで来るのであろうか」と否定的な自問としていわれている。この問い立てからして既に安部公房の世界です。勿論、窓はそうではなく、「吾等の心の反照たる鏡なのではなからろうか」というのが、２０歳の安部公房の結論なのです。このように考える安部公房の世界は再帰的(recursive)であり、自己参照的です。

　この窓の議論は当時の友人達とした形跡があり、中埜肇宛て書簡（１９４３年12月6日付）では、「新しい登上人物。別離と窓氏」とある。これは、１９４３年、安部公房１９歳のときの議論。また、繰り返しますが、このとき同時に議論されている別離という言葉も、安部公房にとっては大切な言葉であり、概念であった。無名詩集の最後は、別離に関するリルケの引用で終わっています。「別離は出発の始めである」。

　時間が飛びますが、「安部公房の劇場」（ナンシー・K・シールズ著。新潮社）によれば、ある時著者が日本を発つときに、安部の多忙を理由に遠慮したにもかかわらず、羽田国際空港までわざわざ見送りに来てくれて、言ったはなむけの言葉があります。同書２１２ページからひきます。

「羽田国際空港がまだ東京の玄関であったころ、安部はわたしをメルセデスで拾い、チェックインするまで見送ろうとするのであった。その必要はないといって断り、多忙な日程を思い出させようとしても、「長旅だから、だれか見送る人が必要なんだ」といってきかなかった。」

　安部公房には、いつも、心の中に１０代の少年が棲んでいたのです。さて、話を窓に戻しますと、このように、窓は、安部公房の一生を通じて、大切なモチーフ（動機）のひとつとなっています。

安部公房は、カメラがとても好きで、写真をたくさん撮っています。安部公房にとってのカメラ、写真撮影という行為の意義は、この子供時代から１０代に思考して得たこの窓に、その淵源があるのだと、わたしは思います。勿論、父親の浅吉がカメラが好きで暗室を持っているほどだったという親子の関係から生まれた嗜好では、表面的には、あるでしょうけれども。

（後年、安部公房は「写真は詩に似ている」と語っています（ナンシー•K•シールズによる安部公房とのインタヴュー。ContemporaryLiterature誌、１９７４年秋季号）。それは、詩が、安部公房にとっては、理論篇の「詩と詩人（意識と無意識）」で思考したように、窓からみた外界を、また外界からの窓を通した反照を写すからでしょう。そうして、安部公房にとって、写真は詩の代償であり、書かない詩の補償の行為であった。）

そうして、それは、上の「詩と詩人（意識と無意識」の引用にもありますが「のぞき見」るという行為は、カメラを通じて行われる、犯罪者的な、誰かとの一種の共犯者としての感情に通じていると思います。

箱男の段ボールの窓を思って下されば、それはひどく自明のことのように思われることでしょう。この写真が詩に似ているという言葉の意味は、箱男のところで詳述します。

そうして、安部公房の撮影する写真が、共同体の内側ではなく、その外側にある塵捨ての場所であったり、また建物の間にある、薄汚れたような、薄暗い、また人の知らぬ隙間の空間、いってみれば、空間と空間の接続部分であるということが、深い意味を持っています。

４。「君が窓辺に」という詩の窓（１９４４年）

「君が窓辺に」（１９４４年。２０歳）という詩では、窓は、次のように歌われています。詩の全体を引用します。

光より　光の方へ想ひ流れて
静かなる胸の動きを　君が窓辺に聴き給へ
我が立つ声　嘆きも忘れ
黙すかの如く　君が窓辺に

石の如（ごと）　面をふせ　ひそかに偲びて
麗しの陰影は君が姿をゐかこみぬ

石の如（ごと）　面をふせ　ひそかに偲びて
麗しの陰影は君が姿をゐかこみぬ
語るも忘れ　もだしためらひ
なげくが如く　君が窓辺に

歩み給へ別離こそ　まことの愛ぞ
涙の始め　笑ひの始め
ほのかなる　天使の姿
吾れなえはてし　君が窓辺に

一人して　うまし木の実を
なさけだに　おとししものを
一人居の天使　吾れに許さじ
涙せし如く　君が窓辺に……

　これは、一人称（わたし）の窓辺ではありませんが、わたしと君との間に窓があります。また、別離もあります。（また、天使という形象は明らかにリルケからです。）

上に引用した「詩と詩人（意識と無意識」の窓を読むと、この窓が二人称である君を理解する、君を反照する窓であるのでしょう。そうして、一人称であるわたしもまた窓を持っている。互いが互いの反照であるということになります。

　後年の作品「箱男」に、この「詩と詩人（意識と無意識）」の一人称の窓と二人称の窓の関係を絵に描いたような場面がありますので、引用します。夜に、箱男が好きになったエロティックな看護婦の姿を窓を通じて求めて、病院の窓を幾つも探して廻る場面です。箱男は、彼女という三人称を使っていますが、実質はもう呼びかけに等しい三人称です。

「彼女の部屋は、建物の裏にまわって、左から二つめの窓である。（略）五万円を返して、約束を取消してもらい、出来れば窓越しにでもいいから、よく話し合ってみたい。彼女の出方いかんによっては、まるっきり違った方法で、力になってやれないとも限らないのである。

　それはそうと、あの庭に面した窓の明かりは、なんだろう。あそこが待合室で、次が診察室で、さらにその奥……（略）念のために、いちおう覗いておく

ことにした。」（全集第２４巻、４７ページ）

　この場面は、箱男の姿を想像してみると、酷（ひど）くグロテスクで滑稽な場面です。しかし、他方何か古典的な、窓辺にいる美女を慕い、窓の下で楽器を奏で、歌を歌うというヨーロッパの古典的な場面にも通う、デフォルメされ、歪曲された、グロテスクな様式美（バロック様式）に通うものを感じます。

　閑話休題。

さて、また、この詩の第３連に特に明らかなように、別離は涙と笑いの始めであり、天使が窓辺に姿を現します。この天使は、「第一の手紙〜第四の手紙」の窓（１９４７年）に出て来る、主人公に存在の仮面と手袋を渡す男と同様に、外界との接続者です。

　この窓辺という外部との接続する場所、或はそのような者が現れる場所が窓であり、ここが、安部公房の悲哀の涙（ペーソス）と笑い（ブラックユーモア）の生まれる場所なのです。そうして、この場所は、接続の場所ですので、当然ながら、別離のある場所でもあるわけです。

上の詩では、安部公房は何もむつかしいことを言っているわけではなく、自分の思索を忠実に言葉に変換して、詩にしていることがわかります。

５。「天使」という未発表作品の窓（１９４６年）

その次に、この原稿を書いているときに、安部公房が２２歳のときに書いた「天使」という題の未発表の短編が文芸誌新潮に発表になりましたので、この「天使」という作品の窓を見てみましょう。この作品の最後にも、やはり窓が出て来ます。

この小説の主人公は、ある正六面体の中に暮らしていています。（この冒頭のこの箇所を読むと、安部公房の読者は直ぐに箱男を想い出すことでしょう。）
そうして天使が、その空間の外部から毎日食事を運んで来る。
これとほぼ同じといってよい詩が、無名詩集の中の「孤独より」と題した詩の「其の四」にあります。

ある時、その天使が姿を見せずに食事だけがおいてあったことを契機に、主人公はその閉ざされた無限の空間を出て、更にその外にある外部の空間に出て行

きます。そこは天使達の棲む国です。

主人公は天使の国を天使になって彷徨いますが、自分が途中に見付けて手折り胸に差した紅の花への他の天使達からの反応によって、自分の死がその国の天使達の考える死とは全く異なることを知り、更にその空間の外部へと出て行こうとします。

そのときに、外部の、より高次の次元への接続の場所として窓が現れます。

主人公がその窓へ行く前に、詩が掲げられています。これは、窓を語り、その外へと出るためには、どうしても詩の形式で安部公房が歌わなければならなかった、いつも必然的に現れる詩なのです。

遥かなる想いに答え
時に咲く紅の花
いざ咲けと
唇は笛を求めど
風よりも尚おひそかにて
笛は鳴らざる

この詩を読むと、主人公が胸に差している赤い花に咲いて欲しいと思い、そのための気持ちを表現するために曲を奏する笛を求めて吹いてみるが、笛は風よりも尚密（ひそ）かなるものであって、笛の音は鳴らない。

この笛の音は、「言語以前の記憶を」呼び起こし、主人公は懐かしさを感じ、「誘われる様になって」「垣ぞいに歌の聞こえて来るその窓辺に近付いて」行くのです。

この小説では、この窓辺は、「何故か心の奥底、と言うよりは、私の想出そのものを其処で繰返えしている様な魂の波を激しく攪乱した」窓として書かれています。

これは、このまま、安部公房の創作の方法の奥義を示しているのです。

それが、どのような方法であるかは、「詩と詩人（意識と無意識）」（全集第１巻、１０４ページ）と、真善美社版の「終りし道の標べに」（全集第１巻、２７１ページ）をお読み下さい。前者は、１０代の安部公房の思考の総決算の

理論篇であり、後者はその理論篇の、散文作品の実践Hとなっています。（もうひとつの実践篇は、勿論、詩作品の没我の地平と無名詩集です。）

６。「第一の手紙～第四の手紙」の窓（１９４７年）

安部公房２３歳の時の作品に「第一の手紙～第四の手紙」（１９４７年）という作品があります。

　この作品では、語り手である主人公に、一度着用すると脱げなくなる仮面と手袋を置いて去った人物は、主人公が窓辺にいたところに、外からやって来て、その人物に仮面と手袋を渡すのです。しかも、その出来事は、話の中の話として、話中話の中で語られるのです。後年の安部公房の手記と手紙の形式の原型が、ここにはあります。

勿論、その仮面とは、後年の他人の顔の仮面であり、顔そのものでありますし、手袋とは、安部公房が「手について」というエッセイで後年書き、また安部公房スタジオの役者達に伝えた、存在の手、neutralな、人間の誕生以前の手なのです。（次回は、安部公房の手について論じたいと思います。）

７。「箱男」の窓（１９７３年）

　箱男の箱に窓があることは、安部公房の読者ならば既にご存じでしょう。

　それならば、箱男の窓は、説明の必要もないように思います。しかし、やはりいうべきことがありました。それは、窓と写真の関係です。

　わたしが手元においている箱男は、新潮文庫版（平成六年十二月五日に十四刷）なのですが、この小説を読むたびに、以前から気にかかっていたことのひとつに、何故安部公房は、この小説の中に挿入した写真にみな黒い枠を嵌めているのだろうかという疑問がありました。

　それは、どうみても、わたしの直観では葬儀のときの黒枠の写真に見えるからです。その写真の中に映っている人たちと風景の葬式のように見えるのです。これは、安部公房自身が撮った写真です。

見ることには愛があるが、見られることには憎悪がある。見られる傷みに耐えようとして、人は歯をむくのだ。しかし誰もが見るだけの人間になるわけにはいかない。見られた者が見返せば、こんどは見ていた者が、見られる側にまわってしまうのだ。

しかし、上の「詩と詩人（意識と無意識）」の窓（１９４４年）で引用した「写真は詩に似ている」と語っている安部公房の、ナンシー•K•シールズのインタヴューの言葉に接すると、容易にその答を得ることができます。

安部公房が時間のない空間的なリルケの詩を自分のものとしたことからいっても、生者の世界からみると死者の世界である詩の世界が、リルケの詩の世界であり、安部公房の詩の世界でした。

安部公房が詩という言葉を使うとき、それはいつもリルケの詩であり、無名詩集の詩のことだと言い切ってもよいのです。

安部公房にとっての写真は詩の代償行為、補償の行為であるのであれば、安部公房は、リルケの詩の世界、また自分の無名詩集の詩の世界に身をおいてカ

メラのシャッターを押していた、即ちその写真は挽歌であり、生者の世界を死者の眼で眺めていた陰画の世界であったということです。安部公房の写真はみな、弔いのこころで写した写真なのです。

もし安部公房の写真が普通の写真のように白枠の写真であるならば、その黒枠は写真の内部、内側に入り込み、黒い、暗い色となって現れている筈だとわたしは思います。

箱男に挿入されている写真は、箱男が撮影したか、または箱男の窓から見た外部の光景です。

　窓を通してみる外部が陰画の世界としてあるということ、写真でいうとポジではなく、ネガの世界であるということは、その詩の世界の在り方と共に、小説の世界においても銘記すべき、安部公房に実に特徴的なこと、特有のことだと思います。

　それから、もうひとつ。リルケに学んだ詩と死の世界とは別に、詩の世界においてばかりではなく、小説においても、安部公房の弔いの感情は、初期の「終りし道の標べに」（真善美社版）から終始一貫して、安部公房の小説の根底に伏在して、伏流水のように流れている感情です。

　「終りし道の標べに」（真善美社版）は、１０代のかけがえのない友金山時夫の早過ぎる死を悼（いた）み、金山時夫の墓碑としてその死を弔うために書かれたものです。子供の死を悼み、弔う。この感情は安部公房のどの作品にも伏流していて、最晩年の小説「カンガルー・ノート」に至って、作中に引用されるご詠歌、賽の河原で石を積む弔いの歌として、再び地表に溢れ出て、その姿を鮮明に現しています。

　安部公房の中では、詩の代償としての写真撮影という行為の根底に流れる弔いの感情と、１０代の親友金山時夫を喪って書いたこの友のための墓標、即ち真善美社版の「終りし道の標べに」に発する小説や劇作の根底に流れる弔いの感情は別のものではなく、ひとつのものとしてあったことでしょう。

この節の最後に、安部公房のその弔いの感情を、主人公の箱男を通じて率直に表した箱男の言葉を、以下に「箱男」（全集第２４巻７１ページ）から引用します。

「「迷うことはないさ。」うながすように贋箱男が続け、「箱男なんて、気にしなければ、風やほこりみたいなものだよ。ぼく自身、そのことについちゃ、面白い経験があるんだ。何気なく撮った写真を、現像に出してみたら、画面の手前に、まったく予期していなかったものが、大写しになっていたのさ。

ダンボールの箱をかぶった人間が、のこのこ通りを歩いているんだよ。君のように玄人じゃないから、子供だましのカメラだけどね。あれは何を撮るつもりだったっけ。かなり以前のことだが、たぶんどこかの葬式風景だと思う。自分が手掛けた患者の葬式は、なるべく記念に撮っておくことにしているんだ。（略）」

８。「カンガルー・ノート」の窓（１９９１年）

最後に晩年の作品「カンガルー・ノート」の窓を、その小説の最後からひいてみたいと思います。もう、ここはほとんど「箱男」の世界と同じ情景です。

「箱が窓の下に据えられ、ランニング・シャツの一群が、ぼくを窓から引き下ろそうとする。（省略）

北向きの小窓の下で
橋のふもとで
峠の下で
その後
遅れてやってきた人さらい
会えなかった人さらい
わたしが愛した人さらい

遅れてやってきた人さらい
会えなかった人さらい
わたしが愛した人さらい

（オタスケ　オタスケ　オタスケヨ　オネガイダカラ　タスケテヨ）

この晩年の詩には、１０代の安部公房には願っても得られなかった軽味、ユーモアがあります。

そうして、窓といい（それも北という方向を向いている）、橋といい、また峠

といい、いづれも接続する場所だということが、共通していることで、安部公房のセンス（感覚）、生きているという感覚と、生き生きとした形象は、これらの接続する場所から生まれて来たのだということがわかります。

窓も橋も峠も、１０代のエッセイ「問題下降に依る肯定の批判」（１８歳）では「遊歩道」といい、２３歳の手記体の小説「第一の手紙～第四の手紙」では「歩道」といった場所、即ち町の中へと外側から町の中を通らずに通じている道、通路と全く同じものを意味しています。それらは皆、外部と内部を接続する場所です。

　このような安部公房の思想を一言でいうと、それは、

物事の本質或は言語の意味は関係にあり、従い、二義的な領域（＝接続する場所=conjunction=論理積）に、それは存在する

という思想です。

　これが、そのまま晩年のクレオール論（言語機能論）の骨格であり、また、アメリカ論の骨格であった筈です。これらの論文を是非読みたかったと思うのは、わたしひとりではないことでしょう。

　二義的な場所とは、接続する場所、即ち内部と外部を接続する機能を持つ。その場所は、中心からみると縁（へり）であり、周辺であり、辺境です。この場所は、安部公房の想像力が一番生き生きと躍動する、安部公房が終生飽きる事無く語った場所です。

「子午線上の綱渡り」（全集第２８巻、１０２ページ。１９８５年。６１歳）という対談で、方舟さくら丸の登場人物の一人、もぐらについて話した後に、安部公房は続けて次のように言っています。

「彼だけでなく、考えてみると僕の小説の主人公はほとんど全員名前を持っていない。個性はあっても無名であり、世間から認知を拒まれている。こういう人物が僕にとって現代という世界を透視するための窓になるのです。」（下線筆者）。

無名である、世間からの認知（自己認証）を拒まれている、透視する、窓がある。と、この一連の言葉が、１０代の、いや既に小学生の安部公房の意識に種

子として胚胎し、芽ばえていたということは、そうして後年の作品に結実して行ったということは、安部公房という人間が如何に自分自身に忠実であり、正直であったかということと、また同時に、どれほど孤独であったかということを示しています。

安部公房の意識が、従って小説の主人公の意識が、再帰的、自己参照的であるとは、このような執拗な、決して宇宙の探究を諦めなかった安部公房の孤独な努力の証跡なのです。」

『天使』の冒頭の記述が実はトポロジー（位相幾何学）といふ数学の文字による、従ひ人間の言語による記述であつて、それも人間の意識のあり方と未来の形象と時間の外部へと脱出する変形の記述であるとは、同じなり行きが後年の短編小説『使者』では、箱の中の論理と火星人といふ出で立ちで現れてゐる。この話をすると尽きることがありませんので、最後に失踪三部作と作者の呼ぶ最後の失踪小説からエピグラフを引用して、終はりにします。

「都会---閉ざされた無限。けっして迷うことのない迷路。すべての区画に、そっくり同じ番地がふられた、君だけの地図。だから君は、道を失っても、迷うことは出来ないのだ。」（『燃えつきた地図』のエピグラフ）

これは、全ての物事が等価に遍在してゐる超越論の世界です。これが安部公房のトポロジーの世界なのです。

窓と箱やその他安部公房の文学的主題を網羅した、それも全生涯に亘つての相当多岐に亘る主題については『安部公房の奉天の窓の暗号を解読する～安部公房の数学的能力について～』（もぐら通信第３２号及び第３３号）の前篇と後篇をお読み下さい。ダウンロードは：

前篇（もぐら通信第３２号第三版）：https://www.docdroid.net/X3JMiDt/document
後篇（もぐら通信第３３号初版）：https://www.docdroid.net/oXW1GgO/document

# 『都市への回路』論

## （１７）

### （４）音の領域[聴覚の小説『密会』]
### ①盗聴とセックス

岩田英哉

目次

（１）小説『密会』をめぐつて[聴覚の小説『密会』]
①病院といふ舞台
②強者と弱者
③逆進化の逆説
④現代小説の陥穽
⑤マルケスとポー

（２）演劇について
①アメリカの『友達』
②演劇の現代
③夢と俳優
④デジタルとアナログ

（３）写真について[視覚の小説『箱男』]
①写真について
②覗きの構造
③廃棄物

（４）音の領域[聴覚の小説『密会』]
①盗聴とセックス
②音楽の時間
③抒情の効果

（５）都市に向つて
①花田清輝
②国家と暴力
③都市に向つて
④祭りへの不信

青字がこれまで論じて来た項目、赤字が今回論じる項目、黒字はこれからのものです。

＊＊＊

## （４）音の領域[聴覚の小説『密会』]
### ①盗聴とセックス

①盗聴とセックス

インタヴュアー曰く、『箱男』が視覚小説ならば、これに対して『密会』は聴覚小説であるといふ、以前の指摘に戻つて話を続けていふには「この作品の舞台である病院は、盗聴装置が完璧な形で組織されている世界」だと指摘し、更に「これは、セックスの問題とも関連していて、安部さんは主人公に「人間の場合、臭覚は退化しすぎてしまったし、視覚は進化しすぎてしまったので、その中間の聴覚がもっとも有効に作用するということらしい」と語らせているわけですが……」これについてのお考へをお聞かせ願ひたいといふ問ひかけに対して安部公房は次のやうに回答します。

この回答を見ると、私たち読者に明らかなことは、この作家は常に閉鎖空間を意識してゐるので、この、壁で囲まれた四囲と上下に天井と床のある立方体を想像しながら、次の安部公房の回答に耳を澄ませませう。つまり、『天使』と同じ正六面体の空間にあなたは閉じ込められてゐると想像するのです。さうして此の小説の場合、私たちのゐる閉鎖空間は『密会』の狂気の世界である其の当の病院であると、さう思つて作家の話を聴いて下さい。それは次の一言です。

「盗聴という補助手段が導入されると、人間は壁のない家で暮らしているような状態に置かれることになる。」

これは、箱男の生活する閉鎖空間の内部と外部を等価交換して生まれる箱男のための外部剥き出し状態です。これを安部公房は「皮をむかれてしまうんだね。（略）視覚を聴覚に置き替えるというのは怖いことなんだよ。」といつてゐる。

ここで続く安部公房の言葉を見ると、この作家の重要な主題は、此のやうな仮説設定によつて、といふよりは此れはまづ第一に事実の指摘でありますが、その上でいふところは「人間は、いかにして関係を回復するかという衝動と同時に、いかにして関係から逃れるかということにせっせと努力している。」といふことですから、依然として若い時から変はらずに、当然といへば当然なわけですが（何しろ一つの形象が熟するまでには２０年も３０年も待つ安部公房のことですから）、人間同士の意思疎通は如何に可能かといふ主題が安部公房の主題なのです。コミュニケーション・communicationの問題です。間違ひなく、若かつた安部公房は、この問題を解決するためにcommunismに身を投じ、日本共産党員にまでなつて文化活動に精励して［註１］、組織と個人、即ち最大の人間の組織である国家と個人の問題、即ち両者の乖離と分裂を如何に解決するかを命をかけて模索したのです（『安部公房と共産主義』もぐら通信第２９号をお読み下さい。詳述しました。ダウンロードは：https://www.docdroid.net/qWmSK9M/document）。

communication－communism－community

［註１］
十代の成城高校以来の哲学の親しき友中埜肇に此の入党直前の時期の心境を次のやうに安部公房は語つてゐる。この「純粋」といふ言葉の心は此の初期安部公房の書簡に尽くされてゐる。

「ぼくは次第にマルクシズムに接近してゐます。マルクシズムはぼくのアンチテーゼではなく、ぼくの超へるべきものであるやうに思はれます。革命と超越のイデーがぼくの中で結ばれかかつてゐます。」
（『中埜肇宛所かん　第１７信』全集第２巻、３３３ページ）（傍線引用者）

この引用文で、安部公房にとつてのcommunismとは全く独自のもので、革命をいはば存在の世界で成就するといふ思想であることがよく判ります。

とこのやうに横文字で３語を並べると、今このインタヴューで安部公房の答へてゐる主題の連環がよく知られるでせう。ですから、インタヴュアーのいふ盗聴とセックスの問題も、この３語の連環の中にあるのです。何故なら、まづ第一にセックスとは男女の性愛の交流を通じてのccommunicationだからであり、そこに一つの最小の組み合わせでのcommunityが生まれるからであり、さうであれば、これは実に私的なそして秘密のcommunismだといつて良いものだからです。カール・マルクスの共産党宣言にセックスをめぐる何らかのcommunicationの問題の解決、即ち性愛の肯定が書かれてゐるかといふと、書かれてゐない。この人間にとつて本質的な意思疎通の問題を閑却してゐるから、今の世になつて、LGBTQなどといふ私にはBBQ・バーベキューと区別もできぬやうな暴力が西欧やアメリカの近現代の中心国家で猖獗を極めるといふ無様な話になつてしまつたのである。この連中には日本の江戸時代の浮世絵を見せて、この高度な美的に洗練された日本人の性愛文化の男女の全ての組み合はせの意義と意味の理解できない外国人には入国ははつきりとお断りとすべきである。男女の性愛を絶対否定したcommunityとcommunismは、日本語でいふ共産主義になり、この看板の裏を返せば全体主義と書いてあり、今やグローバリズムと書いてあるのだ。

本題に戻ると、安部公房には『便器にまたがった思想』といふエッセイがあり（全集第１７巻、１０８ページ）、此れはそのまま１９７０年代のこの時期に依然として、この作家にとつての重要な主題の一つが、

communication－community－communism

といふ３語連環、３語連鎖の中にあるセックスの問題であり続けてゐることが判ります。そして此の連鎖は、そのまま『方舟さくら丸』といふ核シェルターの物語、日本の国の核シェルターを疑ひ（そして日本の国家権力が核シェルターに無関心であり、この着想に無能であるといふことが今現実の証明されてゐる）、私的に核シェルターを建造して今とこれからに生きようとする個人の集合たる方舟communityの話であることも良く理解することができます。

箱舟または方舟を今辞書で引くと、英語ではARKであり、確かに『方舟さくら丸』の英語の題名は『ARK SAKURA』でありますから、しかし同時に此れはユダヤ人たちが担いで秘して運搬した聖櫃と同じ意味であり同じ語であることに、ユダヤ教徒ではない私などは驚くのです。この方舟さくら丸に乗船する乗組員たちが聖櫃に入るといふことは、人間としても聖なる存在になるといふことで（一神教ならば当然に絶対神に選ばれた人間といふことになり）、いふまでもありませんが安部公房の存在論の記号を用ひて表記すれば、《方舟さくら丸》なのであり、この船は聖櫃である《さくら丸》なのです。《さくら丸》のさくらには、贋物といふ意味がかけてある事は、この作品出版後のインタヴューかエッセイに作者の述べてゐる通りです。つまり、この《方舟さくら丸》自体が日本国家の、日本国家へのグロテスクなるパロディーになつてゐる。

かうして考察をして来ると、安部公房が何故箱舟といふ文字を選ばずに、方舟といふ文字を選択したのかの理由がわかります。『箱男』の作者ならば箱舟が良いだらうにと私たち読者は思ひますが、しかし此の《方舟さくら丸》は開かれた便所と便器の話なのであることは、物語の終盤になつて、何でも嚥下咀嚼する万能便器に主人公が足を取られて足が抜けずにゐるといふ場面を思ひ出せば、私たちには十分に納得できる理由なのです。箱舟の箱は閉鎖空間、方舟の方は、方角の方ですから四方の方であれば、それは開かれた空間といふ意味なのです。

『便器にまたがった思想』といふエッセイをもとに、この場面を解読すれば、次のやうになります。この見開き２ページの短いエッセイで作者の曰く、

「作家と作品は、因果関係のスモッグのなかで、鬼ごっこをしているうちに、どちらが鬼だったか分からなくなってしまった、恋人同士のようなものではないかと思う。」（全集第１７巻、１０８ページ下段）

少し抽象化していへば、この引用の前段で安部公房の書いてゐる主旨は、作家と作品の関係を因果律で説明する一般的な世間の理解、即ち、作品は作家のなした結果なのであり、作家は作品の原因だとする俗流の理解に異議を呈してゐて、はつきりいふと、作家と作品の関係は因果律では説明のできない超越論的な関係であつて、時間の内部にしか適用できない因果律では説明の仕様がないのだ、といふのが安部公房の主張なのです。

そして、更に其の主張を要約すれば、因果律を離れて論ずるままに、安部公房は作品と作家の関係を、作家の生き死にと作品の関係に展開して、次元を一つ上げて結論を、如何にも安部公房らしくボカして次のやうな譬喩（ひゆ）で述べてゐる。私が敢へて、はっきりと整理して書くと此のやうな具合のことをいつてゐるのです。

作者と作品の関係に於いて、作者が作品に対しての原因的存在であるといふ一つの極端と、もう一つの極端である作品は作者の結果的存在であるといふ此の二つの両極端の間に作者といふ人間は本来ゐるものなのである。そして、後者即ち「作品は作者の結果的存在であるといふ」考へに与（くみ）する作家は「結果的存在に安住したいという、ニヒリスティックな楽天主義にひかれ」てゐるのであるが、他方、前者即ち「作者が作品に対しての原因的存在である」といふ考へに与する作家は「多少なりとも、原因的存在として、事物を支配し征服したいという願望を捨てきれないでいる」のだ。ここで安部公房は二項対立を排して存在してゐる作家のことを全面的に肯定して、此の位置を「純粋」な位置であるといひ、次のやうな時間の中で必ず生ずる二項対立の二つの項を否定して、論理的には否定論理積と二進数の論理学でいふ論理を展開して、「だが、純粋な原因がありえないように、純粋な結果というものもありえない。原因的存在ではないからと言って、結果的存在だと言いきることも出来ないのである。」といつてから（ここが読者にお馴染みのトポロジーの等価交換と否定論理積の組み合はせによる二項対立否定の論理展開です）、上記に引用した「作家と作品は、因果関係のスモッグのなかで、鬼ごっこをしているうちに、どちらが鬼だったか分からなくなってしまった、恋人同士のようなものではないか」といふ、安部公房らしい直喩の譬喩を使つてみづからが小説の中の登場人物にでもなつたやうないつもの調子でいふのです。

話がここに至つて、安部公房の「純粋な」とか「純粋」といふ言葉の使ひ方の意

味が確定しました。ナチスの軍服がなぜ「純粋」制服なのか（『ミリタリィ・ルック』全集第２２巻、１２９ページ下段、１３２ページ下段、１３３ページ下段）、何故バロック音楽の特にバッハの音楽は「純粋」音楽なのか（『演劇と音楽とーバロック風にバロックを』全集第２５巻、３５１ページ上段；『効く音楽』（バッハ論である）全集第２４巻、３２８ページ）、その発言の根拠が、この因果律を捨象した作家のあり方を、このやうに論ずることで実に明らかになりました。

そして、この安部公房の純粋概念は、あるいは純粋といふ概念は、この作家らしく、便器の思想と交差してゐるといふ訳なのです。整理すると、

〈作家［（生、死）、二項対立（作品、作家自身）、時間（原因、結果）］、空間［（閉鎖、開放）、人（自者、他者］、秘密（セックス、排便）〉……【A】

この分類を前提に『便器にまたがる思想』を一度お読み下さい。あなたといふ読者に一層臭ひが立つて安部公房との関係が濃厚になる筈です。私はなりました。

要するに、安部公房のいふ「純粋」なるものとは、因果律によつてゐる二項対立を否定して成立する、時間を捨象した超越論の世界にある物で、安部公房が「美学的」（美的ではないことに注意；例「美学的軍服」（『ミリタリィ・ルック』同巻１３２ページ上段）「美学的欲求」（『ミリタリィ・ルック』同巻１２８ページ上段））だと判断するものが「純粋」なといふ形容詞の冠せられる物なのである。

そして、あくまでも、このやうな安部公房の閉鎖空間の開閉に関はる「便器の思想」は「都市社会」で有効なのであり、何故なら其処では「精密機械なみの人間関係が要求される」からなのである。勿論、「確かに関係が生じているとき以外は関係がゼロであることによって、その関係は非常に精密化、特殊化される」といふ此の「精密化、特殊化される」関係といふのは、都市での人間関係のことなのであり、此れは「人間は、いかにして関係を回復するかという衝動と同時に、いかにして関係から逃れるかということにせっせと努力している」人間を前提にして、その努力の無用の状態である「関係がゼロ」である場合があつての、関係回復の努力といふ対比なのであり、「便器の思想」なのです。

同様にセックスといふものも、自然の中の行為ではなく、安部公房が念頭に置く

のは密室の中での秘密の行為なのであり、話は「便器の思想」の延長にあるのです。ですから、ここでも上記【A】の分類は生きてゐる。この分類の論理の上にゐて安部公房は、田舎の社会では人間関係が「フラット」であり、従ひ二次元であるのに対して、「都市社会では人間関係がきわめて立体的なんだ」といふやうに三次元以上であると考へてゐます。それ故に「その立体的構造に耐えるためには、どうしても「隠す」技術が必要になってくる。見えない部分をたくさん作らなければ駄目だ。個の確立というやつだね。セックスにはそういう精巧な人間関係を破壊して原始に引き戻す力がある。」と述べ、この判断の根拠はやはり超越論に基づいて「価値判断以前の問題だよ。盗聴の怖さもよく分かるだろう。」と此の話を結んでゐます。（傍線引用者）「以前」を付けた場合の安部公房の超越論の始まりが此処にあるのだといふ此れについては、これまでも幾度も解説した通りです。

ここから『密会』が聴覚小説であるといふことから話が舞台に飛んで、『水中都市』の上演で安部公房がシンセサイザーを自分で駆使して作曲をしたといふ話に移ります。

②音楽の時間

（続く）

# 日本一極国家論（続篇）
# GAMECHANGE理論（１２）
## ４.１.６　日本国家核ミサイル保有論３：日本国家核ミサイル保有を主軸にしてみる「日米関係及び日米軍事同盟関係」論

岩田英哉

依然として、既述のプリンストン大学叢書の一冊である核ミサイル理論をもとに掲題の問題を考へる。この書物によつて得たememy・opponent・adversary、即ち敵国・対立国・対抗国の三分類を基準にして、下記のマトリクスを得たので、これを掲示しますので、ご覧下さい。ダウンロードは：[https://docdro.id/2Ju1oWu](https://docdro.id/2Ju1oWu)

2022/10/12
eiya iwata

日本の国にとつての敵国・対立国・対抗国一覧表

| | | A | B | C | D | E | 評価の根拠 | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 不確実性 | 可能性 | 蓋然性 | 現実性 | 確実性 | 評価の根拠1 | 評価の根拠2 | |
| Enemy | 敵国 | | | | 中国 | | 尖閣諸島の恒常的な領土侵犯 | 日本の国家主権への侵害 | 特亜４国 |
| | | | [アメリカA] | [アメリカB] | アメリカC | | 米軍基地の日本国内駐留 | 日本の国家主権への侵害 | |
| | | | | | 韓国 | | 竹島の不法占拠 | 日本の国家主権への侵害 | |
| | | | | | 北朝鮮 | | 日本国民の拉致 | 日本の国家主権への侵害 | |
| | | | | | ロシア | | 北方領土の不法占拠 | 日本の国家主権への侵害 | |
| | | | | | | | | | |
| Opponent | 対立国 | | [アメリカA] | [アメリカB] | | | | | |
| Adversary | 対抗国 | | [アメリカA] | [アメリカB] | | | | | |

この図から解る事をいつもの通り箇条書きにして列挙します。

### １。日本を主軸とした場合のアメリカといふ国家の曖昧性について

アメリカとの日米軍事同盟関係は、この表の示す通りに非常に曖昧なものであることが解る。

### １.１　日本を主軸とした場合のアメリカとの関係の曖昧性について

軍事同盟でありながら、敵国であつて（米軍基地と米軍の駐留）且つ場合に応じて特に経済的交渉などでは国益の対立から、アメリカは日本にとつてのopponent・対立國にもなり、また日本国内の政権による政治的判断にも容喙して来ることをみると、一々此れは日本の独立的で具体的な政治と経済の領域での判断に対抗して反意を表明するadversary・対抗国であるといふ、カラム・列を見ると、行・ローが三分類ともに、アメリカはBの列・カラムに現実性を以て交差してありながら、他方同時にB・Cのカラム・列にも交差してあるといふ非常に日本の国家に不透明な、場合場合に応じて（といふことはアメリカの利害に応

じてといふ事を現実には意味するが）ある階調の中に絶えず動いてゐる国が、アメリカであるといふことになります。これを認めてゐては、日本の国の命運が危ふいことは明白である。この事態を問題として、解決を図らねばならないことは焦眉の急である。

### １.２　アメリカA・B・Cを一つにまとめなければならないことについて

そのためには、アメリカA・B・Cを一つにまとめなければならない。ここに日本の国家戦略上の重要な要目といふべきポイントがある。ここが日本の国体の臍の尾であり、臍下丹田が此れである。ここに今の日本は力が入らぬので、国体といふ体が威力を発揮できない状態にあることが解る。これをなすことが、日本の核戦略の構想と具体的な立案に結果する。これがなければ日本の核理論は現実のものにはならないことに留意すべきである。普通に考へれば、日本独自の島嶼国家型核戦略の中にアメリカの軍事力を、国内にある米軍を含めて、組み込むことになる。アメリカに依頼心を抱かぬ、これが唯一の選択である。

### １.３　日本の国体について

ここで私のいふ国体とは、スメラミコトの膝下に明治時代に福沢諭吉の翻訳した社会・societyに応じて輸入した西欧米の近現代の経済制度（ここでは政体に対して経体と呼ぶことにする）即ち資本主義、および政治制度（ここでは経体に対して政体と呼ぶことにする）即ち民主主義の、これら二つの制度をいひ、この二つよりなる体タイより更に成る国家の体テイを、頂点にスメラミコトを戴いてゐることを大前提に、国体コクタイと呼んでゐる。従ひ、

### ２。日本を主軸にした場合の特亜４カ国について

上記１乃至１.３までの項目を前提に、そしてアメリカを勘定に入れて、日本の国の独立判断性を、即ち国家意志を、即ち国家主権の発動を前提に置いて、その上で特亜４カ国と明記した次第である。

### ３。日本を主軸にした場合の特亜４カ国への評価の根拠について

これら特亜４カ国の敵国である「評価の根拠２」を見ると、何故なら、全てが同一の「日本の国家主権への侵害」であるから、この判断になる。そして、

### ４。一般論：日本を主軸にした場合の敵国に対する国家意志の発現について

Dの列・カラムに於いて、その他の３カ国、即ち中国・北朝鮮・韓国は、「評価の根拠１」の理由により３カ国とも敵国である。何故日本は海外にも鮮明にして敵国としての態度を表明し、政体と経体にあつて、即ち国体に即して戦ふ意志を示さないのであるか。私は理解することができない。

上記４の場合、個別にそれぞれの３カ国に対する戦略の立案も必須である。このとき、核保有を既にしてゐる国と、韓国のやうに意志はあるが未だ保有してゐない国とを分けて戦略を練ることも肝要であることも解る。この個別論での敵国に即した区別・大別と、国内政治と国内経済との関係を考へるべきである。例をいふと、韓国の経済と政治の衰弱してゐる今こそ、竹島奪還する絶好機の到来と考へて自衛隊を送り、現実に我が国の領土を奪還すべきである。といふ常識的な知恵が此処に生まれる。

### ６.１　政体と経体といふ用語の有効性について

このやうに考へて政治と経済といふ言葉を使って見ると、やはり政体と経体といふ言葉の方の選択をして考察を進める方が、具体的な政治的外交交渉の題目と具体的な商業的交流の制限や制限の効果的活用法を、日本独自の国益のために国民の生活上の利益のための発案が幾つもできることに気づくので、つまり国の具体的な交渉上の得失がおのづと解るので、以後政治は政体の上位概念、政体は政治の下位概念として用語の使用を図るものとする。経済と経体についても同様とします。

### ６.２　国体を具体的に考へることについて

また国体といふことを考へるならば、それを構成する二つの柱である政体または経体いづれか一方でも否定をする外国または特亜４国は同時にそのまま国体の衰弱を招くか或いは毀損の結果になるので、ここは外交交渉次第といふものの、明らかに反日である国家は敵国と認定すべきであるといふ結論を得ることができる。政体または経体の否定は国体の否定であり、天皇の御存在の、従ひ、日本の伝統と歴史と文化といふ国家存立の基礎の否定であるので、一層に敵国と認定して、外交交渉と、更に従ひ外交は内政の延長であればこそ、内政も一層に取り締まりを厳重にすべきことであるといふことが解る。これが世にいふ国家安全保障の問題である。

### ６.３　非核三原則を撤廃すべきことについて

飲む・打つ・買ふは、人間個人ならば極道の人生であるが、国が飲まず・打たず・買はずをするならば、これは個人とは正反対に、国家極道の歴史である。戦後８０年は、この国家的極道の歴史である。個人が国民である以上は、こんな国家に付き合ふ必要は全くないことは今や自明である。

（続く）

# ＳＦで思考するための本棚
（１１）
初期荒巻義雄論３
『カリフィヤの少年』論

岩田英哉

まづ荒巻ワールドが、次の性格を構造的に備へてゐることを最初に挙げてをいてから、本論に入る。

作者にとつての〈存在〉は:

1。時間の液状化であり、
2。それは命の生まれる母なる海であり、
3。この液状化は一つの高次元であり、
4。この高次元の存在である命は〈破れ〉・〈裂け目〉から話者にやつて来るのであり、
5。これが話者と遥かな存在との交信・コミュニケーションを可能にする

といふ此の5つの特徴を備へてゐることを列挙して本題へ進みます。

また同時に、また別の視点から此の作品を眺めると、古事記や言語論や他の文明の遺跡や歴史との関係を縦横無尽に自由自在に引用して話を運ぶ此の作家の物語は、唐突かも知れませんが、カタログ小説といふべき趣向にもなつてゐてゐます。だから、荒巻ワールドは自註が再帰的に作品本文の一部を構成しながら、本文と註記との間を往復する。

さて、以上のことを前提に本題に入ります。

この作品は全６章からなつてゐます。この６章のうち最初の５章は上記の５つの特徴をよく備へてゐますので、次のやうに整理することができます。

第１章：時間の液状化であり、
第２章：それは命の生まれる母なる海であり、
第３章：この液状化は一つの高次元であり、
第４章：この高次元の存在である命は〈破れ〉・〈裂け目〉から話者にやつて来るのであり、
第５章：これが話者と遥かな存在との交信・コミュニケーションを可能にする

そして、第６章。

第６章：第５章での「話者との遥かな存在との交信・コミュニケーション」の結果何が起きたかが書かれてゐる。

といふ第６章は、一種のミステリー仕立ての最後の謎解きの章といふわけです。一つひとつ見て参ります。

第１章：時間の液状化が起きる
最初の一行から海原の叙事が始まるので、これが其のまま時間の姿である。

「海原は緑色だった。鮮やかに、どこまでも、エメラルド色だった。」

そして、「カリフィヤは海洋惑星である。その全体がまるで洪水に浸されてしまったような浅海状の特徴を持っていた。」とすぐ後に二行を間に置いて続く惑星の説明は、この惑星ごと此れは時間の惑星であることを意味してゐます。さうして、その中にある少ない陸地の中には島々があつて、それは「カリフィヤの赤道地帯に切れ切れに陥没した群島が、たった一つある」といふ、これが主人公たる話者の向かふ陸地である。この陸地といふべき群島は、六つの島からなつてゐる。

この主人公は「比較惑星文化形態学者」と「地球政府の惑星保護局」に資格を付与された上で、この目的のために滞在期間限定で海洋惑星にやつて来た。

この、読者への自己紹介の後に此の惑星の特徴と特性が語られる。「とまれ、カリフィヤの陸地は、よく発達した珊瑚礁である。」とあるからには、陸地もまた海の一部なのである。そして、例のやうに例のごとく、これらの島々は六つの大きな距離を隔てて一種の水路でありながら、「島の内部にも迷路状の小水路が発達している。」ので、ここで読者は『時の波堤』を想起することができる。この物語の主人公も水路で〈存在〉に接続した通路を通つて高次元の生物に瀑布といふべき大きな時間の瀧津瀬の下で出逢つたのであつた。この海洋惑星のモデルの上では、主人公は「全くの偶然の賜」として「この村を発見する」。何故なら、「ある日のこと、私はひょんなことから、一人のカリフィヤ人の少年を救助したのである」からだ。「彼は、向い側の島へ渡す途中、潮が満ちてきて、海峡の真中で溺れかけていたのだ。」

以上が作者にとつての〈存在〉の舞台である。この存在を主人公は研究テーマとしては「環境因子」の視点から論ずるといふ。これは「この自然環境とわれわれ人類との因果関係を研究する学問」の一つのテーマである。この場合、「カリフィヤはその意味で、まったく理想的なモデルと言えるのだ……。」といふこと

ですから、この海洋惑星といふ〈存在〉は、そのまま〈存在〉のモデルである。このやうにして、主人公は少年の住む村へと案内されて行く。

これが液状化した時間の中での第１章です。

第２章：それは命の生まれる母なる海である

この命の海から誕生した生物が、カリフィヤ人である。この惑星人にとつては、この海が母なる海である。

この海で救助した少年を主人公はフルートと名付けた。これはニック・ネームである。この章でカリフィヤ人は甲殻人であるといはれ、どうも尻尾があるやうだ。さうして何故フルートかといへば、カリフィヤ人は「鋼鉄と言つてもよい堅い外殻をまとうカリフィヤ人の発生音は、地球人の耳にはちょうど金属の管楽器のように響いた」からである。次の第３章で、その鉄器型文化の次第が明かされてゐる。

第３章：この液状化は一つの高次元である

さて、かうして、この生命体は体が道具に変形して育つやうに生まれついてゐて、それもカリフィヤ人の文化は鉄の文化であつて、それは「カリフィヤ型鉄文化」と主人公により報告されてゐて、これが此の鉄の文化の基礎となつてゐる型である。これは惑星から自生して生まれてきたといつても良いのは、この惑星は鉄分が星の中心に比重の重さにも拘らず沈まずに表面に残つてゐるからである。そして、それが鉄器の材料として表面に、変な言ひ方だが育つてゐて、あとはカリフィヤ人が其の用具の手脚を使つて刈り取つたり切り取つたりすれば良いだけなのである。

この第３章はカタログ小説の面目躍如であり、上記には細かく引用しなかつたが、細かな註釈がカリフィヤ人たちの仕事の背景として描き込まれてゐる。ここは作者の想像力の伸び伸びとして筆の生きる世界です。

主人公は調査研究のためにカリフィヤ人たちの体に赤と白のペンキで印をつけてやつた。今風に云へば識別子といふところです。このことに関係して後年、彼らの創世神話に登場する、主人公が「「天降つてきた”偉大な人”の使用する「奇妙な道具を用（つか）う」といふ其の神であると誤解されることによつて、主人公が地球に帰還した後に、後述する理由でカリフィヤ人への時間と歴史への干渉が起きてしまふことを知るのです。創世神話と地球人が神だと信じられてしまふことから起きた問題が第６章で語られるのです。

## 第４章：この高次元の存在である命は〈破れ〉・〈裂け目〉から話者にやつて来る

液状化の一つの例として、カリフィヤ人の造る酒を主人公は供されて飲むのであるが、これは大きな建築物の棟上げ式の振る舞ひ酒である。その鉄型文化の甲殻類の用具を手脚に持つカリフィヤ人は「生まれながらの工作人」であつたのであり、この鉄分が液体である土地に含まれてゐる以上は、地球人と主人公は頻りに比較をして説を述べるが、この章にあるカリフィヤ人は、地球人にとつては全く異質の高次元の存在に違ひない。

この〈破れ〉・〈裂け目〉は、彼らの創成神話の中に出現する地球人の、いふならば主人公自身が空から乗り物にのつて「天降つてきたか”偉大な人”の使用する「奇妙な道具を用（つか）うのを見たカリフィヤ人の遠い祖先たちは、自分たちもあの”偉大な人”のようになりたいものだと思った」結果、体が今のやうに変形して用具人になつてしまつた、といふのである。

## 第５章：これが話者と遥かな存在との交信・コミュニケーションを可能にする

さうして滞在期間の終はりに、村での調査の仕事が終はつたことから、「私は迷路のようになっている島の水路の探検に」時間を当てたのである。「案内人は、いつもフルート少年であった。」

このフルート少年との交流が、主人公の再度の今回の此の訪問と前章での創世神話の語られることによつて、この高次元の存在の命たるカリフィヤ人は、天の〈破れ〉・〈裂け目〉から、主人公の地球への帰還後に正反対に話者のところにやつて来て、第５章での意思疎通の話となるのです。といふのは、この場合、主人公たる「話者との遥かな存在」即ちカリフィヤ人の少年との「交信・コミュニケーション」は、折角この章で「異星人に対する不干渉の原則」に従って少年フルートの他の島に行つて見たいといふ願ひを断つて地球に帰還したにも拘らず、主人公が他の島のことを話したがために、少年が行動を起こしたに違ひなく、あるいは少なくとも其の契機を村の人々にもたらしたに違ひなく、最後の第６章にて明らかになる通りに、主人公の意志と願ひに反して、彼らの時間と歴史に異星人である主人公による時間と歴史への干渉が生じて、これが結局地球人のもたらした天からの〈破れ〉・〈裂け目〉となつて、再帰的に話者のところに及んで来て、驚くべき結末が、次の章の大部を占める研究論文の記述となつて結果するからです。

といふことで、さて、

## 第６章：第５章での「話者との遥かな存在との交信・コミュニケーション」の結果何が起きたか

次の一行で此の章は始まる。

「それから一年後。
　私の”カリフィヤ人の生態”と名付けた研究論文が、ある学術誌に発表された。」

さうして、この論文は「彼ら工具肢をもつ奇怪な惑星人類の記録」であることが大きな評判をとつて、「それから二年後。」主人公は或るレポートを」読んで、其の後のカリフィヤ人の生態を知ることになり、喫驚するのである。レポートには次のやうに書かれてゐた。

「現在、惑星カリフィヤ群島には六つの種族が生息しているが、そのうちの一種族については極めて珍しい特徴が見られる。その種族は彼らの甲殻に様々な模様が見られるが問題はその色彩で、白と赤の二種があり、それぞれ雌雄を区別しているものである。

「なお、現在惑星カリフィヤの六種族間には、既に回避し難いほどの緊張が高まっている。有史以来長い間孤立状態にあって安定を保っていたカリフィヤの種族は、前述の舟の発見によって互いに他種族の存在を知るに至ったが、その結果においては、それぞれの種族が自己保存の本能的欲求に従って相互に敵視し合う状態に陥っている。この状態はわが人類におけるクロマニヨン対ネアンデルタール人の闘争を嚆矢として、以来連綿と続けられてきたわれわれ人類の歴史を想起させるものであるが、このカリフィヤにおいてもかのローレンツ理論が指摘する生体の攻撃的機制に基づく戦争が遠からず開始されるであろう……」

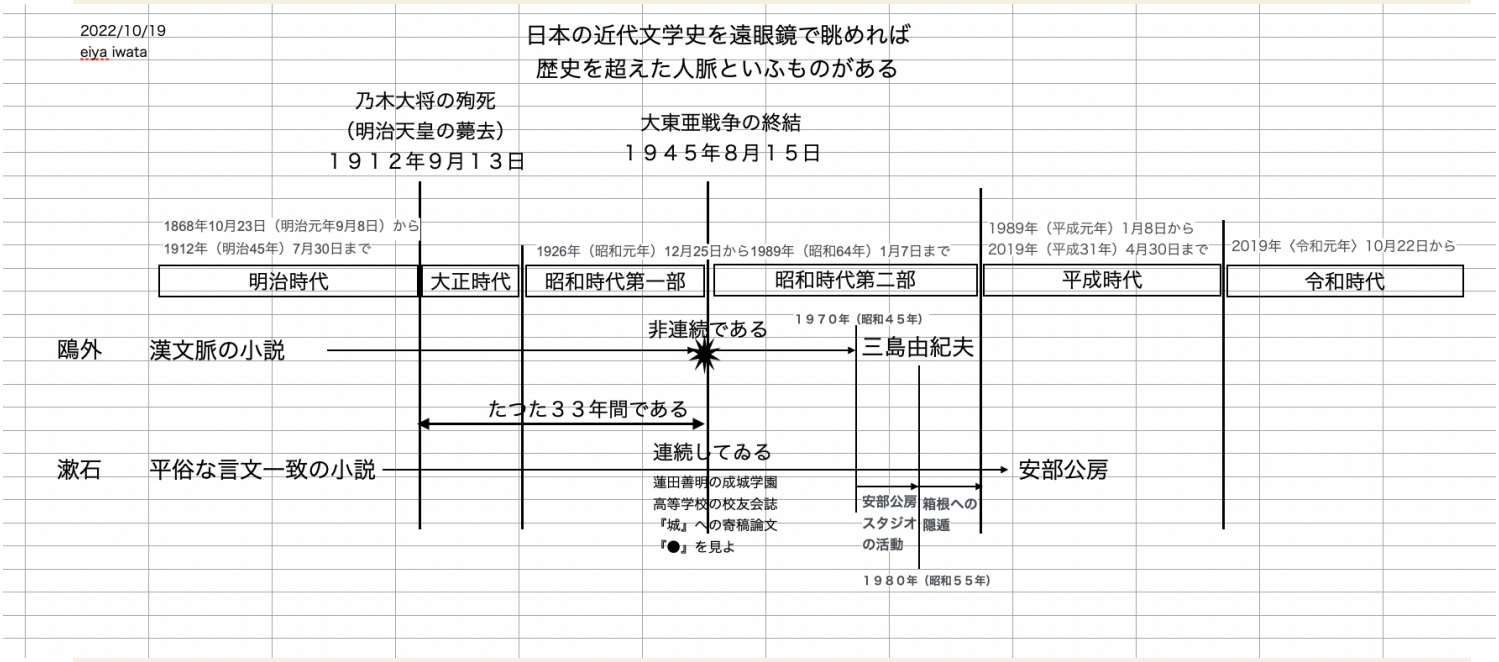
作者の存在論は、変形をともなふ汎神論的存在論であるので、意味のまとまりが文脈を一つづつ構成する一章一章を跨いで等価で交換されて互ひに一章一章が章を跨いで浸潤を繰り返すのを私は論じながら目の当たりにした。これの意味するところは、かくして、安部公房の小説を翻訳するやうにして翻訳すれば、英語であれドイツ語であれ、十分に翻訳可能であるといふ結論に達したのである。但し、ここで相互浸潤と私の言へる理由は、この作家の世界が時間の液状化であるのに対して、安部公房の世界は逆に時間の空間化であつて、諸関係を函数関係に置き換へた静寂の世界であるからであり、他方、荒巻ワールドは、この作品がさうであるやうに些か静寂を破つて生まれ続ける〈破れ〉・〈裂け目〉から命の物語が始まるといふことを銘記して置かねばならないといふことである。対して安部公房の世界では正反対の方向に、閉鎖空間から窓といふ〈破れ〉・〈裂け目〉から命の物語が始まるといふ両者の対照がある。

# 二十一世紀の日本文学のためのスケッチ・ブックPartII（１）
## 日本の近代文学史を文体といふ遠眼鏡で観る

岩田英哉

特番『鴎外、漱石・・明治文学と日本の発展』ゲスト：文芸評論家　小川榮太郎氏
https://www.youtube.com/watch?v=5BaY2l1aNDo

上記の動画を見て掲題の発想を得たので簡潔に図解して下記に示して、読者の理解を得たい。これは、明治時代以降の、坪内逍遥の唱へた言文一致体といふ日本語の小説のための文体と、江戸時代以来連綿と続いて来た感文脈の文体との並行した文体の継承の系図を明治・大正・昭和・平成・令和と俯瞰したものである。この文体論は、谷崎潤一郎の『文章読本』を嚆矢として、その後の作家たちによつて大きな時代の節目節目に同じ題名のもとで昭和に至るまで書き継がれて来て、論ぜられて来たものであることは、一連の『文章読本』論にて詳細に論じたところです（もぐら通信第１１８号から第１３６号までを参照）。




上掲図でお判りの通り、三島由紀夫が鴎外の漢文脈の継承者であり、対して安部公房が漱石の平俗な言文一致の主張を継承して実現した作家であるといふ図柄です。

しかし、驚くべきことは、この期間の時間の短さである。乃木大将の殉死で明治時代の精神史が終はつてから昭和の第二部である１９４５年までの間の時間がたつた３３年間である。３３年間といふ数字は、一人の人間の最も盛んな時の時間の長さに等しい。

この昭和の第二部の始まりは、三島由紀夫にとつては非連続の人生の再出発であり、安部公房にとつては本人の弁の通りに、戦前と戦後の識別なくそのまま連続してゐる。この連続性の意識は、成城高校に勤務してゐた蓮田善明が同校の校友会誌『塔』に発表した論文『純粋技術への決意』［註］の内容のある文章の文学上の意志であり遺志であるものを、不思議なことではあるが蓮田善明の弟子の三島由紀夫が継いだのではなく、成城高校生であつた安部公房が継いでそのまま戦後に文壇に登場してきたといふことである。蓮田善明に書いてある生きるここに関する志は、戦後の座談会『二十代座談会世紀の課題について』で、安部公房の言葉として次のやうに語られてゐる。そして、全集のこの箇所を読むとよくわかるが、この座談会の参加者には、蓮田善明の論文の書き方からいつて戦前はひどく知識人の間に膾炙してゐたと考へることのできる此の真理の探究者の生きる姿勢の維持と突然訪れる理不尽なる死といふ関係にある、生きてゐることと死ぬこととの相反することのないと云ふ意義は、全く既に当時左翼・共産主義の知識人たちの間では忘れられてゐたのであることが判る。安部公房の言葉です。後半の第二段落の言葉に注目下さい。これが蓮田善明の論文の言葉の引用にそのまま相当するのです。

「ぼくは終戦後満洲にいたんですが、完全な無政府で、強盗や人殺しが日中大通りでヒンピンと起き、しかも抵抗が出来ない。組織もない。個人にとって最悪の状態だったと思う。そういうときに、本当に自分が堪えるいい試煉だと思って、自分の思想が役に立つかどうか実験しなければならぬと思っていた。なかなか凄いものなんですよ。強盗が入って来て、ぼく自身も耳スレスレに弾丸を打たれたこともあるし、相当な目に遭った。しかし結局知ったことはどんな恐しい経験にも耐え得るものがあるということだった。抗いに対する反応として身を防ぐことよりももっと痛切なものがあるという体験だった。

　そのとき感じたんですが、ダヴィンチなんかが暴徒に襲われ家の門を破られそうになったとき、「神よみ心のままに」といって仕事を続けたとか、またアルキメデスが幾何を解いていたとき後ろから殺されようとした時の話しとか、それがどんなに充実した生の瞬間であったか……これは個人的な立場にとどまらず、もっと人類的なもの、同時に人類的なものへ引き上げられてきていると思う。物を人類的に考えるということ、個人的に考えるということは、どちらか一方だけであってはいけないので、一種の緊張の中に自分を納得させるもの

が生まれてくるんじゃないかと思ったんですがね。」（『二十代座談会世紀の課題について』全集第２巻、６６ページ下段）

［註］
『安部公房と特集:安部公房と成城高等学校(連載第4回)』
（もぐら通信第４１号）より引用する：

「1941(昭和16)年8月:安部公房17歳:蓮田善明が校友会誌『城』第37号(同年8月5日発行)に『純粋技術への決意』を寄稿」

一体誰が三島由紀夫の文体脈の後を継ぎ、誰が安部公房の文体脈の後を継いでゐるものか。

私の本棚
（４７）
荒巻義雄著『出雲國国譲りの謎』を読む

岩田英哉

前々作『高天原黄金伝説の謎』前作『有翼女神伝説の謎』に続く、荒巻義雄の連続作品古代史物のメタSF最新作である。表紙の謳ひ文句に、伝奇ロマンとあるやうに、文字通りの伝奇的な物語であつて、作者の言葉でいへば内宇宙・インナースペースでの物語です。

私も読んでゐて、半村良の伝奇的な古代からの連綿たる血脈ものを思ひだしました。話を此の物語自体に限るよりも、この小説を読んで私が読者として何を思つたかを書く方が良いと思つたので、このまま続けます。

推理小説・探偵小説に倒叙物といふ叙述の仕方があつて、このことを安部公房の提唱する仮説設定の文学、これは別にSFに限つたことではなく文学一般のあるべき姿として安部公房は論じてゐるわけですが、この仮説設定の文学は、これに対しては正叙物といふことがいへるのではないかと思つた。といふのは、仮説設定の此の枠組みを最初に提示しなければ話が始まらないので、この文学はどうしても正叙物になるのではないかと考へたからである。例へば、荒巻義雄の『カリフィヤの少年』の冒頭は次のやうに始まる。

「海原は緑色だった。鮮やかに、どこまでも、エメラルド色だった。
　惑星の重力はたしかに強い……。それははじめ、私の筋肉に作用し、やがて私を疲労させた……。
　カリフィヤは海洋惑星である。その全体が、まるで洪水に浸されてしまったような浅海状の特徴を持っていた。」

だから、仮説設定の文学とは、舞台設定で全体の話が決まる文学だと言ひ替へても良い。この舞台は目に見えるやうな此のやうな設定でも良いし、また目に見えない舞台の設定でも良い。と、このやうに考へると、仮説設定の文学で倒叙物が可能だとすれば、後者の場合、即ち目に見えない舞台設定の場合ならば、最初に殺人事件の死体を置いて話を始めることができるのではないかと考へた。あなたもご存知のやうに、安部公房には『無関係な死』といふ短編作品があつて、その出だしはかうである。これも、見事な出だしの一行だと今読み返して思ふ。

「客が来ていた。そろえた両足をドアのほうに向けて、うつぶせに横たわっていた。死んでいた。」

この作品の場合、安部公房の小説の常で、舞台設定はいつも閉鎖空間であるのだ、登場人物以外には登場せず、ここでは主人公の若者一人だけが舞台で右往左往するわけで、倒叙物の結末であるやうな犯人の解明といふお楽しみはないのであるが、もし此の話に殺人犯人をどこかで登場させるとしたら、そのやうな殺人事件の探偵小説になるのではないかと思ふ。

このやうにSFとミステリーといふ二つの小説の範疇を一つに融合することを考へると、私たち読者はやはり戯曲『友達』に思ひ当たることになる。勿論、これは倒叙物ではないわけであるが。この戯曲の筋立ては、アガサ・クリスティの『オリエント急行殺人事件』によくにてゐることが判る。といふのは、この作品では被害者以外の全員その車両にゐた人間たちが、このいはば密室殺人事件の犯人だからである。

この『出雲國国譲りの謎』も密室殺人事件もので、セプテム教団といふ宗教団体をめぐつて、二つの連続殺人が起きる。この殺人の起きる舞台設定が、古事記の中身と出雲国を治めてゐた大国主命の命運の物語なのであり、しかも此の舞台設定は二重構造になつてゐて、現代の時間の進行する舞台は、これまでと同様の小樽湊といふ湊町なのです。それなら、現代とはいつの時代かといへば、日本が二発の原爆投下を受け入れて物理的な敗戦の始まりの日の１９４５年８月１５日以降からマッカーサー将軍がアメリカに帰国するまでの、さうしてサンフランシスコ条約の締結の１９５２年４月２８日までの期間である。

といふことは物語の「現実」の時間は７年間の間であつて、この時間の中で登場人物たちによつて語られるその時の殺人事件の話から古事記の世界へと読者は案内されるといふ趣向になつてゐるといふ、つまり、

占領期間の７年間＞小樽湊の町＞古事記の世界

といふ、作者の作中人物の謎解きの中での言葉でいふと、二重写しの見立ての世界が、これです。見立てとは、小樽湊の世界と古事記の世界が、作中人物の名前が古代めいた名前であることからも既にそのまま語り口に連れて古事記の世界に接続されて異和感がないといふ作者の手馴れたといふべき腕の冴えを見せてゐて、あとは読者はその見立ての迷路の世界を登場人物と共に行き来することを享受するといふか、享楽すればよいだけなのだ。

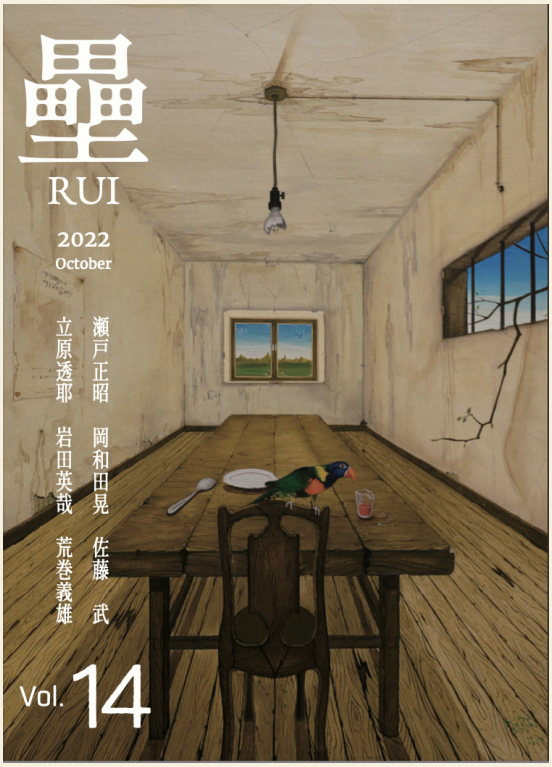
作者は、この二重写しの見立ての世界を、二つの世界の〈中間の世界〉と呼んでゐて、この世界が作者の最も想像力の飛翔する内宇宙なのです。「海水と真水が入り交じった中間の汽水域」とも呼んでゐる。このうやうな海の水域に比定して名付けてゐるところも、時間を液状化して物語の舞台設定とする此の作者らしいのです。

また別の視点から此の作品を眺めると、古事記や言語論や他の文明の遺跡や歴史との関係を縦横無尽に自由自在に引用して話を運ぶ此の物語は、唐突かも知れませんが、カタログ小説といふべき趣向にもなつてゐます。同類の作家に田中康夫がゐるといつたら、作者も驚くことでせう。しかし、カタログ小説の常で、田中康夫の当時の流行小説『なんとなく、クリスタル』にブランド物に関する註釈がついてゐるのによく似てゐます。ですから、この小説は、後ろについてゐる「あとがきに代えて」（つまりあとがきではないのです）といふ註釈があり、その後に、作者自身による用語解説があり、ここには用語解説に対する更なる【註１】【註２】が追記され、その後に陰陽五行説に関する正五角形の図形を持つて来て「古事記神話は陰陽五行説で書かれている？」といふ解説と、またその次のページには魏志倭人伝の地図および狗邪韓国から出雲・九州・大和盆地までの行路の地図があり、最後の最後に「全登場人物一覧」といふ題で合計４６名の人物の名前を総ざらへに一覧に列挙して、本当にこの本の最後のページが完成してゐるのです。

ミステリーといふものも、安部公房は舞台設定の重要な柱としていつも意識して立てた筋立てですから、安部公房の読者にとつても、如何に荒唐無稽に見えやうとも、十分に堪能できるメタ・フィクションです。ご一読は甲斐のあることです。

# サンチョ・パンサを求めて
# （２３）
# 翻訳者の部屋

岩田英哉




これは、メタSF作家荒巻義雄氏の主宰する詩の同人誌『塁』の表紙で、描いたのは私も一度その詩集を論じたことのある本業は画家である佐藤武氏の絵です。

表紙の佐藤さんの絵を見て思ひ出したのは、ドイツのアイゼナハの町の、バッハの小さな生家の側に立つ山の上なるヴァルトブルグ城の中にあるマルチン・ルターの仕事をした部屋のことです。ルターの部屋は右手の窓がないのですが。正面の窓ももつと小さいのですが、それでもその限られた空間の中に置かれてゐる一貫張りと今風にいふなら一枚板でできた多分樫の木でつくつた頑丈な机は、分厚くて、ドイツの農民出の如何にもルターの風貌と体躯に相応しいものでした。ここで二つの聖書を古代ヘブライ語と古代ギリシャ語からドイツ語に翻訳したのかと思ふと感慨深いものがあり、私は当時の東ベルリンから列車に乗って二度訪れました。本当はもう一度帰国前に訪れたいと思つてゐましたが、これは叶はなかった。この御城もまた、私の好きなドイツの城の一つです。山の上なのに井戸がありました。この井戸堀りの技術についてもどうやつてこんな高い山上に水を引くものか、知りたいものです。

さて、私はこの部屋は翻訳者の部屋だと思つてゐます。私にとつては、このルターの部屋は抽象化されていつの間にか翻訳者の部屋になつてしまつた。

何故なら、更にさうであるのは、左手の扉を開けるとそこは広間で、まあ大きなホールであつて、宴会や中世には歌合戦をした場所で、正面の舞台では演劇や遊藝が披露され、旅する騎士もまた席についてゐて歓待を受けた場所で、実に賑やかな大きな天井の高い空間であるからです。そこには世俗の頂点にゐる城主夫妻がゐる。これに対して扉一枚で隔てたルターといふ翻訳者の部屋は誠に小さく質素なもので、飾りも何もなく、四囲の白い壁と、小窓から覗くと下に見えるのはチューリンゲンの森また森の、起伏ある畝（うね）つた山また山と此の起伏を覆つてゐる森ばかり森だけの自然の世界であるのです。二度とも行つて、空はいつも遮るものなく真つ青な大空といふべき大空である。

ルターが何故こんな山の上に来たのかといふ事の次第については、確か日本語の文学史では或る騎士に誘拐されてとあつたのであるが、この誘拐といふ言葉がいまだに解せないのは、それが何故さうなつたのか、何故ルターは下山しなかつたのかといふ理由の説明が欠けてゐたからである。あるいは、誘拐といふのはドイツ語の原文の言葉のあやで、城主の思し召しでといふことかも知れないのであるが、そこは解らない。当時、ルターはバチカンに狙はれてゐたから、身の安全を確保するためであつたには違ひない。不審な尋ね人は城門で門番に拒まれるからである。

この部屋からヨーロッパにゐる古代ヘブライ語（旧約聖書）と古代ギリシャ語（新約聖書）の専門家に、後世の人文主義のエラスムスみたいに質問状を送り、解答をもらつて一つ一つの文章を今に至る標準ドイツ語に翻訳したのかと思ふと、その努力と忍耐力は私の想像を絶する。どう考へても、このルター訳の聖書のドイツ語が以後のドイツ語の基礎である。この偉業は、明治時代の漱石・鴎外の偉業に比肩するところだといひたいが、率直に言って、これがたつた一人の業

（わざ）なれば、それ以上だと言はざるを得ないと掛け値なしに思ふ。なにしろバチカンを敵に廻しての偉業である。私はルターの肖像画を見るたびに、天才とかなんだとか世にいふ言葉も軽佻浮薄に聞こえ、怪物としかいひやうのない感銘に囚はれるのである。

勿論、全ての翻訳者が怪物である必要はないが、往々にして、バロックの１７世紀の時代には多言語の才能が当たり前であるやうな、その語義の等価交換の変換能力の上に他の諸科学で恐るべき偉業を幾つも成し遂げる哲学者や思想家や数学者や物理学者、要するに科学者が現れるのを見ると、ヨーロッパのルターの宗教改革と印刷技術の普及により書物の普及した１６世紀、３０年戦争で消耗し民草はバチカンの奉ずる唯一絶対神を大つぴらに馬鹿にして軽蔑をして混乱を極めた筈なのにバロック様式を範疇横断的に共有した１７世紀に敬意を表するのだ。

私の尋ねた時には、まだ東西に分たれたドイツであつたから、もつと質素な部屋で、壁にある額もなく、緑色の暖房もなかつたし、椅子もなく、ただあの窓から眺めるチューリンゲンの森と大空の美しさは、ルターの眺めた景色だと思ふだけで想像力は時空を超えて目的なく、遊んだのである。

今思へば、本当にドイツ語でいふschlicht・シュリヒト、質素といふ形容の相応しい空間であつた。わたしは今も、翻訳者の部屋はシュリヒトに、本も何もない机と椅子だけの部屋であるのが最善と思つてゐる。

観光客が増えると、不要な碌でもないものばかりが増えて行く。

ネット・モナド論（３６）
民主主義の政治とは何か

岩田英哉

明治以来の「文明開化」の此の難問を遂に解いたので下記の通り、お話したい。まづ、英欧米の近現代の民主主義と我が国日本の民主主義を比較をした「民主主義の政治とは何か」と題したマトリクスを掲げますので、御覧ください

2022/09/25
eiya iwata

民主主義の政治とは何か

| 賛否1 | A | B | C | D | E | 賛否２ |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 賛成 | 1 | 49 | 50 | 51 | 99 | 反対 |
| 反対 | 99 | 51 | 50 | 49 | 1 | 賛成 |
| 賛否２ | 西欧米の民主主義 | | 日本の伝統的な民主主義 | 西欧米の民主主義 | | 賛否1 |

このマトリクスにある意味を以下に解読して箇条書きに列挙する。

## 1。日本型の民主主義

日本型の民主主義は上記のAからEの場合のうちのCの場合がさうである。私たちは力の均衡点を求めて対称性を大切にするので、本来の日本人の民主主義の姿はCである。それで問題は解決するのです。何故なら意識するとしないとに拘らず、私たちはこの均衡点に現れた対称性に美を感ずるからです。
ここで私のいつも例に出す折り紙の折り方を思ひ出してほしい。鶴を折ることにしませう。正方形の紙を二つに折つて重ねて二つの三角形を一つの三角形にする。隠れてゐるのは、二つの三角形であり、折ることによつてその二つのものの均衡が実現してゐる。これは対立物の妥協といふものではないのがわかるでせう。また、私たちが相撲をみるときに、こんな勝負は滅多にないわけですが、それでも土俵の上で東西の力士ががっぷり四つになつて不動の姿勢になつて双方の力の均衡が土俵の中央でぶつかり合ふと其処に美を感じて思はず拍手喝采といふことになる。美しい国といふ政治家ならざる、本来なら藝術の世界の人間のいふべき言葉が何故政治家の口から出てもゆるされるのか、納得できるのかといふ理由が、この力の等価性の実現であるといふのが、私たちの政治の姿なのです。即ち、確かに、世界は差異であるが(縄文原理第一項)、それ故に土俵の舞台の上で

生まれ出る価値の等価的な遍在を此の均衡点の不動の一点に実現する(縄文原理第二項)ことの此の二重性・二重写しの世界が私たちの生き生きして生きることの世界である。更に即ち、私たちはCの場合(50:50の力の均衡)を絶対的に政治の場に於いても肯定してゐるのである。

付言すれば、この均衡と対称性の破れることもまた、私たちは対称性のもつれとか破ぶれとか破(や)れと呼んで、そこに美を感じるのである。たとへば、織部焼にさういふ美を感ずるやうに。

## 2。西欧米の民主主義

これに対して、西欧米の民主主義といふ政治制度は多数決で国家意志の決定をする。即ち、日本の固有の民主主義に対する考へ方は、ここに上記1の説明でお分かりと思ひますが、既にこの土俵にはカミが宿つてゐるのに対して、西欧米の民主主義は多数決であつて、即ち日本が絶対肯定するCの場合を絶対否定することの上になり立つてゐるわけですから、BとDの場合には一票を巡つて争ふことになるわけです。ですから、この一票を巡つて争ふことが私たちにもあるにせよ、その心は全く異なつてゐるのです。私たちは常に相手のことを考へる、これが国際関係ならば常に相手の国のことを考へて共存共栄を前提に考へるのです。

しかし西欧米の民主主義国家は全くさうではない。一票でも数の上で多ければ、これをたとへBとDの場合であつても多数・majorityと呼んで、一票違ひで少ない勢力を少数派・minorityと呼ぶといふ此れ自体おかしなものの考へ方をするのです。

私の子供の頃に習つたあの偉大なる文部省といふ省の検定を合格した教科書には次のやうに民主主義の原理が書いてあつた。これはイギリスの民主主義制度の原理の説明でした。

(1)ジェレミー・ベンサムの唱へた民主主義の政治の原理：最大多数の最大幸福
(2)トマス・ホッブスの唱へた人間観：万人は万人にとつての狼である。

特にこの(2)の人間観を見たときに、私は恐ろしいと思ひました。果たしてこれは日本人の人間観でありませうか?直ちに否です。これは私たちの人間観ではない。さうであれば、イギリスの民主主義は私たちの民主主義と全く異質である。この人間観では、人間たちは一票を巡つて争ひ対立して闘争が起きるでせう。それが論争のうちならまだしも、デモ行進といふ少数派の限度を超えて、いづれ暴

力を振るふ場合があるでせうし、彼らの歴史はアメリカも含めて、常にこのことを証明してゐます。

しかし、対して私たちの民主主義は二項対立のいづれをも否定して対立を超越し、第三項を求めて均衡点に於いて(ここは実は日本人は無意識ですがメビウスの環の結びになつてゐる)双方のためになる、まあ、俗に時代劇の大岡裁きでもいふ三方一両損であつたり三方一両得であつたりして損得を分け合つてできる限り損ならばお互ひに少なく、得ならば共存共栄といふ結果を招来するように判断して取り計らふ訳で、この結末が私たちには一番よく、多幸感を与へてくれる。

ここで明らかになつたことは、私たち日本人は政治に於いて人間を量であると考へてゐないといふことであり、人間を質の観点から考へてゐるといふことである。

このことを私たちは心に銘記すべきです。この考へが、さう、これは既に思想といひ、政治哲学と呼んでよいものですが、これが私たちの国家の政治思想であるのです。

これは太古・古代以来の私たちの哲学なのである。日本の国に於いては万人は万人にとつての狼などでは全然ない。近代的自我?そんなものは虚構であることは私が一連の「塔の文学」論で、キリスト教を離れると彼ら西欧米白人種の自我は虚構の自我をつくつて、さういふ意味では人工的な自我である自我を自己だと思ひ込んで生きることになり、これが彼らの不幸の始まりだと分析した通りです。それが、ロックのいふ現実のイギリスと大陸側の各国の国民の姿である人間観、万人は万人にとつての狼であるといふ意味なのです。彼らのキリスト教の一神教の唯一神Godを中心に物事を考へずに、人間中心にして物事を考へるとかうなり、今の欧米の知的混乱はこれが原因であると私は断言します。さうすると、政治も経済も混乱するのは、共産主義(これは政治範疇と他の範疇の意図的混同)およびグローバリズム(これは経済範疇と他の範疇の意図的混同)が付けこんで今の世界的な各国の混乱を招いてゐる。日本はその極みである国の一つです。これをなんとか解決しなければならない。何故解決ができないままズルズル来たかといふと西欧米の民主主義を盲信して来てゐながら、その原因分析ができないできたからです。

以上が私の原因分析ですから、この原因を無くするための解決策を考へることができます。

さて、さうするとAとEの場合は尚一層に極端な場合でありますから、間違ひなく上記(1)と(2)の西欧米の民主主義原理であれば、この一人は殺されるか、餓死するか、要するに死に至ることになります。一匹狼は99匹の子羊に排除されるといふことです。これらのことをよく考へた上で、福田恒存の『一匹と九十九匹』を再読することは、あなたにとつて意義あることです。日本流の民主主義とは何か?といふ問に答へるためにです。さう、政治は文学ではなく、文学範疇は政治範疇ではない。この知識こそまづ民主主義を考へる基礎である教養であり、文化の力です。政治家たちに最も要求される能力です。本当に優れた政治家になるためには日本の古典を読まねばならない。といふことが国会議事堂の中の人々の常識になれば、国家はよくなる。古事記を読み日本書紀を読み万葉集を読み本居宣長を読みなさいといふことです。これらを読んでゐない人間は政治家にはなれないといふ規定を設けるべきであると私は考へる。勿論、国会議員になるための試験もあるのだ。その試験問題は私が作ります。

## 3。西欧米と日本の国の人間観と政治原理の相違

ここまで論じて来ると、次の表が生まれる。ダウンロードは:
https://docdro.id/HxRh4OY

2022/09/25, 10/03
eiya iwata

西欧米と日本の国の人間観と政治原理の相違
(V2)

| | 関係する原理 | 関係する人間観と政治原理 | 西欧米 | | 日本 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 人間観 | 人間観１ | 人間を量だと考へてゐる | 一神教原理 | 人間を質だと考へてゐる | 縄文宇宙原理 |
| | | 人間観２ | 万人は万人にとつて狼である［人間は互にに敵対的に違つてゐる：トマス・ホッブス］ | ［人間観２の理由で］絶対権力の下でしか人間は統治できない | 万人は平等である［万人は等価である］ | 価値は等価で遍在する［第二項］ |
| 2 | 政治原理 | 民主主義の原理 | 最大多数の最大幸福［多い方が勝ち：最大幸福原理：ジョレミー・ベンサム］ | ［人間観１の理由で］強い方(majority)が弱い方(minority)を絶対支配する | 十人十色［互ひに違つてゐて当たり前］ | 世界は差異である［第一項］ |
| 3 | 自然原理 | 宇宙原理 | 絶対支配原理［唯一絶対神が人間と自然を創造し、世界を支配する］：垂直構造 | 旧約聖書の天地創造［唯一絶対神が６日で自然と人間を創造し、人間を自然の管理者に任命した］：垂直構造による人間支配 | 等価原理［価値は等価で遍在する］：水平構造による人間非支配：［人間観察１の理由で］万民は平等である：これは事実であつて（例：四民平等）、イデオロギー（例：フランス革命）ではない：天地初発原理に拠つて人間は自然の一部である。 | 古事記冒頭［天地初めて発（ひら）けし時］：天地初発原理。高さといふ垂直の方向には時間が存在してゐない。 |
| | | | 西欧近現代の民主主義 | | 瑞穂の国の民主主義 | |

上記1と2をお読みくだされば、この一覧表の解説は不要と思ひますが、あへて以下に箇条書きに、いつもの通り、列挙します。西欧米を彼(か)、日本を我(が)と呼びます。彼我の人間観・政治原理・自然原理の相違は次の通り:

### 3.1　人間観

(1)人間観１：彼は、人間を量だと考へてゐる。我は、人間を質だと考へてゐる。
(2)人間観２：　彼は、万人は万人にとつて狼である［人間は互にに敵対的に違つてゐる:トマス・ホッブス］と考へてゐる。我は、万人は平等である［人は等価である］と考へてゐる。

### 3.2　政治原理

彼は、最大多数の最大幸福［多い方が勝ち:最大多数幸福原理:ジョレミー・ベンサム］と考へてゐる。我は、十人十色［互ひに違つてゐて当たり前］と考へてゐる。人の価値は平等である。といふ意味は、等価である。差別などないのだ。

### 3.3　宗教原理

(1)人間観１

彼は、［人間観２の理由で］絶対権力の下でしか人間は統治できないと考へてゐる。我は、［人間観２の理由で］縄文宇宙原理に依つて、価値は等価で遍在する［第二項］と考へてゐる。

(2)人間観２

彼は、［人間観１の理由で］強い方(majority)が弱い方(minority)を絶対支配する。我は、［人間観２の理由で］世界は［万人に等しく値する］差異である［第一項］と考へてゐる。

### 3.4　自然原理

(1)自然原理１

彼は、［一神教原理によつて］絶対支配原理であり、唯一絶対神が人間と自然を創造し、世界を支配するといふ絶対支配の垂直構造で考へてゐる。我は、等価原理［価値は等価で遍在する］といふ水平構造による人間非支配であり、［人間観１の理由で］万民は平等である。これは事実であつて(例：四民平等)、イデオロギー(例:フランス革命)ではない。天地初発原理に拠つて人間は自然の一部である。

(2)自然原理２

旧約聖書の天地創造［唯一絶対神が６日で自然と人間を創造し、人間を自然の管理者に任命した］といふ垂直構造による人間支配である。我は、古事記冒頭［天地初めて発(ひら)けし時］といふ天地初発原理による高さといふ垂直の方向には時間が存在してゐないことを、即ち此の時間のない垂直方向に現れて隠れた高天原の第一層に始まり、第三層までの此の三階層に日本の国(国津神の世界)を含む、天津神の世界が存在してゐる。日本は超越論といふ哲学及び形而上学原理によつて、神の国であり神々の国である。それは神社が全国津々浦々にあることによつて証明されてゐる。

## II民主主義の政治とは何か2

民主主義の政治とは何か問のうちの、更に、西欧米型の民主主義の場合であるAとEの場合についてもう少し言葉を尽くして、あなたの理解を得たい。質と意味と差異の関係を説明します。

量の意味とは多いか少ないか、大きいか小さいか、厚いか薄いかといふ違ひです。ソクラテスの議論は、その他のギリシャの哲学者も含めていつもこのやうな議論であり、この議論はそのまま中世スコラ哲学の議論の基礎になつてゐることは『安部公房とチョムスキー』で論じたところです(『安部公房とチョムスキー(9):8。スコラ哲学は21世紀にも生きてゐる』もぐら通信第82号。ダウンロードは:https://docdro.id/Sn1R2MF)。この議論の欠陥を比率といふ概念を導入して超越したのがフランスの哲学者デカルトである(『方法叙説』)ことも此処でお話しした。ちなみに、今もこの中世スコラ哲学が西欧米の政治学と政治に生きてゐることを知つてもらふために上記の論からスコラ哲学がギリシャ哲学から採用した三つの思考原理、あるいは原理的な思考準則を引用します。少し長い引用ですが、西欧米の政治原理を知るためにお読み下さい。

結論をいへば、スコラ哲学の唯一絶対神の存在証明の基準は少しも積極的な証明法なのでは其れはなく、あくまでも消去法による消極的な存在証明法なのである。この三基準は同時に定立しないが故に、Godは存在するといふ理屈なのです。つまり、この3つの基準はキリスト教徒にとつては神よりも絶対的なものである。といふ倒錯が、ここにあるといふことになります。スコラ哲学の唯一絶対神存在証明三基準について、八木雄二著『神を哲学した中世ーヨーロッパ精神の源流ー』より以下の箇所を引用します。良書です。

(1)「より大とより小」
(2)「全体と部分」
(3)「一と多」

という此れが判断基準となる「三つの対」である。

「ここに紹介した三つの対は、プラトンが『パルメニデス』で示した哲学分析の道具である。哲学するためにはこの道具を使いこなす必要がある。」(同書「ギリシャ哲学という道具」より)」[註1]

これで、この神学の基礎がプラトンであることがわかる。もし日本の神道家(大学教授を含む)がキリスト教の神学に対抗して折口信夫の先の戦争直後に口にした神道神学なるものを論理的に建設しようと思つたら、プラトンを読まねばならないといふことである。それに、神学とはdie Theologieである以上、これはキリスト教の中世スコラ哲学の唯一絶対神の存在証明の神学であつて、この語の前に神道といふ名詞を冠して神道の神学になるといふ思ひつきは安直であり安易である。何故なら折口のその箇所の文章を読むと、折口は時代が時代であるから危機感を持つたが故に、隠喩(メタファ)として強調的に神学といふ言葉を使つてゐるのであり、神道「神学」といつてゐることがわかるからである。これを神道神学などがあり得ると思ひこん

だ時点で既にキリスト教の神学に神道は敗北してゐる。戦ふ前に敗北してゐるのだ。神道家が学問としての神道学を立てたいと思ふならば、この文字通りの神道学で十分なのである。

[註1]
「安部公房とチョムスキー(11)」(もぐら通信第92号)より引用します。
ダウンロードは:https://www.docdroid.net/dblsvrj/document#page=2

「[註5]
スコラ哲学の唯一絶対神存在証明三基準について、八木雄二著『神を哲学した中世ーヨーロッパ精神の源流ー』より以下の箇所を引用します。良書です。

「中世の議論をより深く理解してもらうために、もう少しギリシャ哲学の本質について述べておきたい。(略)こうした哲学用語を学ぶことは、いわば子供が自転車に乗る練習をするときに補助輪をつけるようなもので、それに頼っていると、むしろいつまでたっても自転車に乗れるようにならない。補助輪を捨てて、自転車の両輪だけで乗る練習をする必要がある。

では、哲学において、その両輪に当たるものは何かと言えば、それは「より大とより小」、「全体と部分」、「一と多」という三つの対である。この三対を使いこなすことができるようになれば、哲学はむずかしくない。(略)じつのところ普遍論争は「全体と部分」及び「一と多」の論であり、後に説明するアンセルムスの神の存在証明には、「より大とより小」の論理が使われている。また神と被造物の関係は、「一と多」の関係なのである。むずかしい言い方をすれば、たしかにこれらの対は「超越論」的に用いられる。超越論的に用いられて、じつは形而上学を可能にする。(略)基本をみて見よう。そのためには、三つの対同士をぶつける。(略)なんだか三すくみのようで頭が混乱するかもしれないが、ようするに三つの対はうまく整合しない。

「多」は「一」と比べて「より大」であるにもかかわらず、「多」は「部分」と一致するのだから「全体」たる「一」と比べて「より小」でもある。

ここに紹介した三つの対は、プラトンが『パルメニデス』で示した哲学分析の道具である。哲学するためにはこの道具を使いこなす必要がある。」(同書「ギリシャ哲学という道具」より)

「大と小」「全体と部分」「一と多」とあるこの三つのGodの存在証明基準、あるいは存在証明不可能基準は、量に関するものであつて、質に関するものではない。このスコラ哲学を比率といふ数学的概念を導入して超越したのがデカルトであると上述したが、上記冒頭の「民主主義の政治とは何か」表に於いて、もし計算の上で「大と小」を99:1(AとEの場合)と結論したのであれば、「全体と部分」は100:1または100:99となり、「一と多」はCの日本の場合を除く全ての西欧米の場合を意味してゐて、1がAとEの場合の1であれば其れは反対であるか賛成であるかと全く無関係に英欧米型の独裁政治になり、BとDの場合であれば、これ

も西欧米型の量としての人間といふ政治的人間観からみれば、100:49か100:51かといふ話になつて、49が弱者・51が強者といふことにいつも二項対立によつてなり、後者が支配者であれば此れは彼らの量的な人間観と政治観によつて実質的には共産主義であつて、51:49の比率の51による独裁政治型の民主政治といふ名前自体が矛盾してゐる私たちの目にはおかしな政治形態だといふことになる。それで私は西欧米の民主主義は共産主義の即ちAとEの場合の特殊な、見かけ上は平等を装った実は偽善に満ちた共産主義の一形態であるといつてゐるのだ。

それに日本人であるならば、上記の100:49か100:51かといふ話になつても、49が弱者・51が強者といふことには決してならずに、私たちは100:49を100:50に、100:51を100:50に共にするようにお互ひに働きかけることであらう。共存共栄。これが納得と満足のための質を求めるといふことなのであり、この場合は二方一両得・二方一両損といふことになるだらう。第三者ならば大岡裁きになるだらう。其れ故に、私たちの議論の天秤は等価原理によつて常に下図のやうな天秤なのである。縄文原理による価値の天秤。

A・Eの場合B・Dの場合
A・Eの場合B・Dの場合

それでは最後に「一と多」はどうなるのかといへば、この基準は上記の議論の中に既に含まれてゐる。1が100であれ49であれ51であれ、対する側もこれで比率化されて、問題は上記のやうに理解され、彼は彼なりに闘争と戦争によつて、我は我なりに平和裡に真の話し合ひよつて解決される。あとは双方が約束を守れば良いのである。しかし彼の約束は終結の原因が戦争と戦闘であれば常に破られ裏切られて、また次の戦争と戦闘が起き(時間の内部での因果律が此処では働く)、我の約束は等価原理によつて守られることである(超越論なので時間の内部での

での因果律が働かない)。敵味方に分かれては相互に油断はできないとしても。

質と意味と差異の関係を説明しますと冒頭いひましたが、これで差異と質の意味を政治形態の話としてお話ししました。それによつて、結局意味の意味も話し、質と意味と差異の関係を説明しました。

（続く）

# 【カフカの箴言１０】

岩田英哉

【カフカの箴言10】

【原文】

Die richtige Erklärung ist aber die, dass ein grosser Teufel in ihm Platz genommen hat und die Unzahl der kleineren herbeikommt, um dem Grossen zu dienen.

【和訳】

しかし、本当の説明は、大きな悪魔が、彼の中に座を占めたということなのであり、そして、大きな悪魔に仕えるために、数限りないより小さな悪魔が、やって来るということなのである。

【解釈と鑑賞】

しかし、という言葉が入っていますから、これは、何かその前に、既にあるあることを前提に、この文が綴られていることを示しています。

何があったのでせうか。

これもきっと、日常の瑣細（ささい）なことに、カフカが鋭敏に反応して生まれた一行なのでしょう。

# 【ショーペンハウアーの箴言４】

岩田英哉

## 【ショーペンハウアーの箴言４】

### 【原文】

Reichtum gleicht dem Seewasser: je mehr man davon trinkt, desto durstiger wird man. Dasselbe gilt vom Ruhm.

### 【和訳】

冨は海水に似ている。飲めば飲む程、ますます喉が渇く。同じことは、名声についても言える。

### 【解釈と鑑賞】

ショーペンハウアーの主著『意志と表象としての世界』を読むとわかるのは、この哲学者の譬喩（ひゆ）の能力が卓越しているということ、実にその譬喩がぴたりと来るところで、その譬喩を使ってみせるということです。

これは、実に驚くべき能力だと、わたしは思っております。また、その主著に限らず、この哲学者の著作を読み、その文章を読むときの、これは、楽しみでもあります。

この譬喩はやさしく、全くそのまま、その通りの譬喩だとわかります。解説は不要ではないでしょうか。

# 高天原便り
## （１０）
## 野菜市場

岩田英哉

毎日わたしは食べるために生きてゐるといふことが実感されるのだ。朝ご飯を食べて１時間もすると次にまたお腹が空くのであるが、正午までまだ２時間も３時間もあるので、どうやって生きて行かうかと悩むのは、生まれて初めての悩みである。毎日何を食してゐるかといへば、土地でとれた米のコシヒカリ、それに塩をかけたり味噌をつけて食べたりしてゐる。いづれもいと美味なり。それに野菜があれば、もはやいふことはない。本当に宮澤賢治が最後に床の中で手帳に書き記した雨にも負けずの詩の通りの生活をしてゐる。東京にゐた時よりも遥かに質素なる生活である。何かを倹約してゐるといふ感じは全くないので、これが田舎で普通に暮らしてゐる自然な生活といふことなのであらう。

問題なのは、宮澤賢治の詩では「あらゆることを自分を勘定に入れずに」は良いのであるが、その次に「よく見聞きし/そして忘れず」とあるところが違つてゐて、「よく見聞きせず/そして忘れる」といふことである。

といふわけで、毎週土曜日に店開きをする野菜市場にいつて、ジャガイモ、茄子、唐辛子、ニンニク、胡瓜などを買ひ出しに行くことだけは忘れないのである。食欲こそ生きてゐる証である。試しに写真を載せるとこんな建屋で、野菜の値段は、ニンニクが２５０円である以外は皆一袋１００円といふ格安の値段です。大きな冬瓜とかカボチャは、やはり相応の値段がするが、多分東京で売つてゐるのよりも安く、味はずつと良い筈です。

毎週土曜日に姿を現す私であるので、農家のおばさんたちとも親しくなつて、言葉を交はすやうに、これも自然になつてゐる。鹿嶋弁といふ方言を話すのが、また誠に良いのです。人間は普通は、東京に住む以外には、かうやつて生きてゐるのではないかな。安部公房の小説は皆都会が、それも抽象化されたもはや都会ではない都会以上の都会が存在としての舞台であるので、そんな世界を毎月論じ、毎日論述を文字にしてゐる生活に比較すると、この野菜市場は本当に、小屋は小さいが、別世界です。もう少し南に街道を下ると、右側の歩道には、文化人類学の用語でなんといつたか、売り買ひをする当人たちがお互ひに顔を合はせずに取引をする形態の野菜置き場があつて、欲しい人はお金を箱に入れて野菜をもつて行くことのできる台所（だいしょ）がある。台の上に野菜が並び、賽銭箱と同じ機能を持つ箱が一つ置いてある。と、さう思つてみると、神社のあの賽銭箱、お寺のあの賽銭箱にお金を入れると、対価として一人一人に良いことがあるといふ

此の私たちの信仰上の取引も神聖なものであるならば、さうしてさうであるからには、この無人販売の取引にも何か意識しない以上の神聖なるものがあるに違ひないのだ。これが都会や都市と田舎の違ひといふことにならうか。とはいへ、返す返すも不思議なことは、日本の国には全国に、そして田舎のみならず都会にも神社と神聖な森があるといふこと、神域が必ずあるといふこのことなのです。まあ、御託を並べるのはこれ位にして、野菜市場です。看板と小さな建屋です。

茄子一個２０円といふ
バラ売りもあります。

袋物は大体１００円

デッキで長椅子に寝そべつて日向ぼつこをしてゐると猫が入つて来て、私に気づくとそそくさと逃げて行くのは一体何だ。もそつと近かう寄つて、ゴロニャンと言つてをくれ。

# 縄文紀元論

## Topologyで日本人を読み解く

## （３７）

## ５.３７　大祓への第一段落第一行には何が書ゐてあるのか

目次


I縄文紀元日本語論
１。日本語と漢語の関係

Intermezzo：何故日本にはキリスト教徒が全人口の１％しかゐないのか？

２。日本語の音義と概念の関係：五十音表とは何か
３。五十音表を記号化する
４。日本人の言語宇宙
５。古事記の宇宙観
５.１高天原とは何か１
５.２カミとは何か１
５.３高天原とは何か２
５.４日本語の特殊の中の普遍
５.５海の民のお祭りと超越論の関係
５.６天照大神とは何か
5.7月読命とは何か
５.７.１月とは何か
５.７.２月読命とは何か
５.７.３月読神社とは何か
５.７.４ヤシロとは何か
５.７.５「鹿座神影図」を読み解く
５.７.６磐座と注連縄の関係
５.７.７亀の甲羅とは何か
５.７.８習合とは何か
5.8カタカナとひらかなの関係

Intermezzo２：海凪之大刀（アマナギ・ノ・タチ）は
一体どんな姿をしてゐるのか

５.９日本位相習合史
５.１０何故国家は単数または複数の神とともに生まれるのか
５.１１かごめかごめの歌は一体何を歌つてゐるのか
５.１２縄文土偶とは一体何か
５.１３習合といふ漢意をやまとこころで何といふのか
５.１３.１位相史のための紀元の分類
５.１３.２淤能碁呂島とは何か
５.１５縄文土器とは何か
５.１６大祓へを読み解く
５.１６.１何故私たちは御祓を必要とするのか
５.１６.２大祓へに唱へられる「聞こし召す」とは何か

５.１６.３「聞こし召す」前に「しろし召す」がある
（１）第一段：高天原八百万神大祓ひ会議
（２）第二段：大倭日高見国内の天津罪と国津罪の分類と大祓
（３）第三段：大倭日高見国は大祓の結果どうなつたか
５.１６.４八の音義は何を意味するか
Intermezzo3　伊勢神宮とは何か

青字は既論の章、赤字は今回論ずる章、黒字は此れから論じる章

Intermezzo３-1　伊勢神宮をやまと言葉で読む
５.１６.４-1　八の音義は何を意味するか２
５.１６.５誰が「しろし召し」誰が「聞こし召す」のか
５.１７　いほりとは何か
５.１８「蟲めづる姫君」はカタカナとひらかなを如何に使ひ分けてゐるか
５.１９クラとは何か
５.２２「日本列島位相史」の最新版を
５.２３　神武天皇のやまとことばの意味は何か
５.２４世界史の中の神武天皇
５.２５　何故私たちは神前で二礼・二拍手・一礼をするのか？
５.２７　カミとは何か２：何故カミはカミと呼ばれるのか？
５.２８　鹿島神宮とは何か
５.２９　神道と宗教と哲学の関係は如何なるものか
５.３０鹿島神宮とは何か２：鹿島神宮の位置と東西南北の鳥居の関係について
５.３１　高天原とは何か
５.３２　経津主大神とは何か
５.３３　「天津国津・東西の神宮とカミ・ヌシの関係」表
５.３４　神宮をやまとことばで読み解く
５.３５　鹿嶋灘を前にしてある東の一之鳥居の立つ明石が浜に南太平洋から一族・部族を率ゐて最初に上陸した、その意義では（inthissense）本当のハツクニ・シラス・スメラ・ミコトの本名はなんといふのか
５.３６　鹿嶋・香取の神宮はいつから其処にあるのか？
５.３７　大祓への第一段落第一行には何が書ゐてあるのか
５.３８　アメの岩屋戸はどこにあるのか
５.３９　天照大御神が凹に「さし籠もりましき」とある意味
５.４０　アメの安の河と安の河原はどこにあるのか
５.４１　アメの安の河原に集ふた神々は何か、どんな神か、そして何故そんなことをするのか
５.４２　鹿島神宮を初めてお参りした時に八咫烏の現れた話
５.４３　高天原の生活は如何なるものか
５.４４　日高見国と日向国の関係：三浦一族の活動範囲
５.４５　日高見国と播磨国の関係：ダイダラボッチ
５.４６　日本とは何か


次回までお待ち願ひたい

# 東ドイツ回想記
## （５）
### 何故わたしは東ドイツに行つたのか４

岩田英哉

西岡さんの話をする前に今思ったことは、計画書通りに生きて来た私の人生とは、そもそもの発想が誠にユダヤ的であるといふことに気づいたのである。こんな日本人がゐたら会つてみたい。しかし、私は此れを何か力づくで実現しようなどとは思はなかつたのであり、これの実現は私の１００％制御しコントロールできるものではないのは最初から明らかであつたから、要するに私の孤墨の及ぶ範囲を守つて、勿論少しも孤墨だとは思つてはゐないのだが仮にあなたに伝へるためにかういふとすると、これならば本分を守ることで、たとへ波風が人生にあつても、波風が私の身に及んでも何とかなるかもしれないと思つたからであり、何故なら私一人が我慢すれば良いことだからであるし人に迷惑が及ぶわけでもなからであるが、この方針で生きて行けば、先々のことはどうなるかは知ることはできないが、要するに未来に明日何が起きるかは予測できないのが人の常であるわけであるから、この人間の能力の限界をを承知の上で制御できる範囲が１００平米であればそれなりに、５平米であればそれなりに、だから私は出来るだけ物を持たずに生きて行かうと思つたのである。本当は一切無所有と思つて此の人生の計画の線表の線を恐る恐る歩き始めたのである。しかし一切無所有といふ慣用句は如何にも仏教的で禅的であり、若い私は此の慣用句の持つ抹香臭ひが嫌であつたので、他の代替語を探して直ぐにやつて来た言葉が日本語ではなく英語であつて、それはmobilityといふ言葉なのであつた。これが私の人生の最高の価値である。だから、私の理想とする物書きの部屋には本は一冊もないといふ稲垣足穂の部屋か、それともニーチェ全集だけがあつたといふ太宰治の部屋が、私の理想の空間、ドイツ語でいふならば、der Raum zum Schreiben・書くための空間と敢へて言ひたい、書斎などと一語で云ことのできない部屋なのであつた。だから、今住してゐる空間が、私の人生で最も書物の量の少ない空間である。

さう、私と同じこと、即ち自分のできる範囲の領分を守つて生きようといふ同じ決心の言葉は、アメリカのニューヨークのジャズの世界で成功した福岡から渡米したピアニスト、その後にはジャズ・オーケストラを率いて同じく成功した秋吉敏子さんがおつしやつてゐたので、ああ、これが一人で全く知人も友人も家族も親戚縁者も誰もゐなニューヨークといふ大都会とで０から仕事を始め、優れたジャズメンたちに伍して日本人として生きて行くために思ひ定めた人生を始める孤墨なのであつたのだな、と、さう思つたのである。だから、この思想といふことの出来る最もささやかなる思想には、少しも孤立はなく、孤墨でさへもないのであつた。ただ自分の領分をはみ出さずに、己の分を守り、本分を守るといふこ

と、これが其のまま道徳の始まりだと私は思ふのであり、その時も思つただけなのである。これが、私とは何か？といふ問の一般系統と個別系統の問の接続トンネルを通り抜けるに際しての、前方に一条の光も見えず、来た筈の道を振り返つてもやはり光の見えない通路の中で毎日毎日、自分の限界を確かめながら、そして此れは敗北の連続を身に直接ドイツ語の世界で生きながら受けることであつたが、毎日異国の言葉に鞭打たれながら分限を知るに至る道なのであつた。当然反撃もし、怒鳴り声もドイツ語であげるのである。言葉で戦はねば生きて行けない。

朝（あした）に道を聞かば夕べに死すとも可なり、といふ覚悟で日々の探究に一心不乱であつたことは前述した通りですが、さうして此の警句を吐いた孔子の論語の教へは、精神と身体の分を守る修養の道であるが、しかし今の歳で支那の在日住の三十代前半の女性と一緒に他の日本人の参加も得てネットで読書会をして論語を読み返してみると、孔子の願つたことは国家とわたくしを接続する媒体・メデイアが必要だといふことであり、それが弟子たちの採録した論語の孔子の言行録なのであると知つたのである。道徳を国家と個人の繋がりの媒体とするといふこと、これは繰り返し人間が、あるいは人類がと少し大袈裟にいふても良いが、これは個人と国家を接続する道徳・媒体論・メディア論なのである。これが遂に私の論語理解であり、孔子理解である。この接続媒体としての機能を、２０世紀の大量一斉同報でマスで、即ち大きな量で以て情報を垂れ流し続けるメディア・媒体が圧倒的に影響力として権力を量の故に国民に及ぼしたことが、この百年間起きて来た悪なのであり、さうであれば、この共産主義国家での私の個人的な体験に戻つて今から振り返れば、国民各人が己の分を知るように努めること、福沢諭吉ならば明治の世に独立自尊といつた気概は、今こそ思ひ出されるべきコトであり、コトのハではないであらうか。

そして更によく考へてみれば、国家と個人の関係を論ずる場合に、媒体・メディアを自覚的に論ずることのない国家論は、みな何の実効性もなく、有効性もないのである。マイネッケの国家論も、開巻の第一行に国家理性と書いたからには、この人間の理性といふものを国家と個人の媒体・媒介にしようとした国家論だといふことなのだし、この国家理性による内政を延長して同じ理性を持つ国家との外交を考へようといふ事なのである。プラトンは、此れをイデアといふ概念によつて、即ち国家を超える概念によつて宇宙論としてイデア・媒体論を論じて、ソクラテスの弁論を通じて、国家と個人を接続しようとしたことが、今よく解るのである。何故ならば、人間は人間のいふことを聞かないからだ。人間が人間とよき関係を維持するには、必ず人間の上位概念を（言語論の視点では）、人間の上位の存在を（哲学の視点では）、人間以上の神聖なる存在を（宗教の視点では）必要とする。此れを、私たち日本人はもう一度、日本の伝統と歴史と文化に回帰して、はつきりと思ひ出すべきである。

さういへば、最近どこか誰かの言葉で、この男性が此の言葉を身近に聞いた年齢がいつかは知らないのであるが、確かに私の子供の頃にはマス・メディアのTVであれ、また身近な大人たちの会話であれ、言ひ争ふと、日本人だから争ふのはやめようと大人たちはいつてゐた。この言葉には、既に日本の外部を、即ち西欧米、ことに先の戦争の後のことであるから特にアメリカ人を意識してゐる言葉であつたといふことが今理解されるのである。お互ひに日本人だから争ふのは止めよう。といふ日本語の美しさを想像してほしい。これは智慧の言葉である。だから、これに男も女もないのである。私は１９５２年・昭和２７年生まれの男である。私は政治もまた美しくあつて欲しいと思ふのである。

なかなか西岡さんに辿り着かないのが人生である。

（続く）

【もぐら通信の収蔵機関】

国立国会図書館
「何處にも無い圖書館」

【もぐら通信の編集方針】

１．もぐら通信は、安部公房ファンの参集と交歓の場を提供し、その手助けや下働きをすることを通して、そこに喜びを見出すものです。
２．もぐら通信は、安部公房といふ人間とその思想及びその作品の意義と価値を広く知つてもらうように努め、その共有を喜びとするものです。
３．もぐら通信は、安部公房に関する新しい知見の発見に努め、それを広く紹介し、その共有を喜びとするものです。
４．編集子自身が楽しんで、遊び心を以て、もぐら通信の編集及び発行を行うものです。